

高崎市文化財調査報告書第 228 集

しも とよ おか ご はら
下 豊 岡 後 原 III 遺 跡

— 宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2008

高崎市教育委員会

例 言

1. 本書は高崎市下豊岡町 1271 番地に所在する下豊岡後原Ⅲ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査及び整理作業は、高崎市教育委員会による指導・監督の下、委託契約を締結した株式会社シン技術コンサルが実施した。発掘調査は平成 20 年 3 月 4 日から 3 月 24 日まで実施し、整理調査、及び報告書作成は平成 20 年 3 月 25 日から平成 20 年 8 月 15 日まで行なった。

高崎市教育委員会

株式会社シン技術コンサル

神戸聖語（平成 19 年度）

調査技術員 藤田亮一 倉石広太

斎藤寛方（平成 19 年度）

測量技術員 阿部福治 岡部貴史 志村将直 成田典信

田口一郎（平成 20 年度）

調査補助員 原野真祐

4. 本発掘調査および報告書作成に従事した作業員は以下のとおりである。

発掘調査作業員：市川容乎 狩野善夫 関根折夫 戸倉 宏 福田俊昭 松本 弘

整理調査作業員：佐藤久美子 鈴木澄江 中里洋子 原口由美子 原野真祐 山田千鶴子

（以上、シン技術コンサル）

上記以外に、菊池康一郎、小林一弘、小林朋恵、福嶋正史（以上、シン技術コンサル）の協力を得た。

5. 出土遺物には遺跡略号（414）、遺構名、出土位置等を注記した。図面・写真・遺物などの資料は、すべて高崎市教育委員会で保管している。
6. 本書の編集は、田口一郎と協議の上、倉石広太、坂本勝一、新井かをり（以上、シン技術コンサル）が行なった。執筆は第Ⅰ章を斎藤寛方、その他を倉石広太が担当した。
7. 発掘調査の実施および本書の刊行にあたり、下記の方々からご指導・ご協力を賜った。記して感謝申し上げる（敬称略）。坂口 一 佐藤雅一 高橋清文 萩原元雄 山際哲章 高崎市農業協同組合 株式会社トラスト技研 たつみ写真スタジオ 有限会社ランド・パートナー

凡 例

1. 本書における遺構の略号は、SI（竪穴住居跡）、SB（掘立柱建物跡）、SK（土坑）、P（ピット）、SF（焼土範囲）、SX（竪穴状遺構）である。また、遺物分布には遺物№の他に略号を付記し、Pを土器、Sを石製品、それ以外の種別を略号なしとした。
2. 本調査では、本遺跡に南接する豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡が一連性の高い遺跡であることを考慮し、豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡で設定したグリッド配置を、延長して使用した。座標値は日本測地系第Ⅸ系を用いた。
3. 掲載図版の縮尺は遺構平面図・断面図を縮尺 1/60 とし、カマドの平面図・断面図を縮尺 1/30 とした。また、遺物実測図版は、瓦を縮尺 1/4、それ以外を縮尺 1/3 とし、遺物写真図版の縮尺についても実測図版と同様の縮尺とした。
4. 土層の色調は『標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・（財）日本色彩研究所色票監修 2002 版）による。
5. 観察表での復元値（口径、底径）や残存数値は（ ）内数値で記した。また、須恵器の製作は「マキアゲ＋ミズヒキ法」（中村浩 1993）を仮定し、「ロクロ整形」の用語を慣例に習い使用した。
6. 本報告に使用しているトーンは以下のとおりである。なお、黒色処理は、処理方法・黒色部位で差異がみられる 2 種類があり、「内面黒色土器」にみられる黒色処理を内面黒色処理とし、それとは異なる黒色処理を内外面黒色処理とした。

還元焰焼成： 内面黒色処理： 内外面黒色処理： 研磨痕：
焼土範囲： 礫：

目 次

例 言

凡 例

第 I 章	調査に至る経緯	1
第 II 章	調査の方法と経過	1
第 III 章	遺跡の立地と環境	2
	1. 地理的環境	2
	2. 歴史的環境	2
第 IV 章	基本層序	4
第 V 章	検出された遺構と遺物	5
	1. 主要遺構	6
	(1) 竪穴住居跡	6
	(2) 掘立柱建物跡	11
	(3) 竪穴状遺構	12
	2. その他の遺構	17
	(1) その他の竪穴状遺構	17
	(2) 土坑・焼土範囲	20
	(3) ピット	23
	3. 出土遺物	24
第 VI 章	まとめ	26
写真図版		
抄 録		

挿図目次

第 1 図	東山道推定概略図	3	第 15 図	SX10、SX10 出土遺物	14
第 2 図	烏川・碓氷川周辺の古墳・集落遺跡	3	第 16 図	SX11、SX11 出土遺物	15
第 3 図	基本層序	4	第 17 図	SX14、SX14 出土遺物	16
第 4 図	グリッド設定図	4	第 18 図	SX4、SX4 出土遺物	17
第 5 図	調査区位置図	4	第 19 図	SX6A・6B・24	17
第 6 図	遺構配置図	5	第 20 図	SX12・16、SX12 出土遺物	18
第 7 図	SI3・SI3B・SX5	6	第 21 図	SX13・15・17・18・20・21	19
第 8 図	SI3 カマド、SI3 出土遺物	7	第 22 図	SX20・21 出土遺物	20
第 9 図	SI3・SI3B・SX5 出土遺物	8	第 23 図	SX1・3・8・9・10・13	20
第 10 図	SI8、SI8 カマド	9	第 24 図	SK1・3・8 出土遺物	21
第 11 図	SI8 出土遺物	10	第 25 図	SK4A・4B・6・11・12・SF1、 SK4・SF1 出土遺物	22
第 12 図	SB1、SB1 出土遺物	11	第 26 図	ピット	23
第 13 図	SX7、SX7 出土遺物	12			
第 14 図	SX9、SX9 出土遺物	13			

表 目 次

第 1 表	SI3・SI3B・SX5 出土遺物観察表	8	第 12 表	SX12 出土遺物観察表	18
第 2 表	SI8 出土遺物観察表	10	第 13 表	SX13・15・17・18・19 20・21 遺構観察表	19
第 3 表	SB1 出土遺物観察表	11	第 14 表	SX20・21 出土遺物観察表	20
第 4 表	SX7 出土遺物観察表	13	第 15 表	SK1・3・8・9・10・13 遺構観察表	20
第 5 表	SX9 出土遺物観察表	13	第 16 表	SK1・3・8 出土遺物観察表	21
第 6 表	SX10 出土遺物観察表	15	第 17 表	遺構観察表 (SK・SF)	22
第 7 表	SX11 出土遺物観察表	15	第 18 表	SK4・SF1 出土遺物観察表	22
第 8 表	SX14 出土遺物観察表	16	第 19 表	遺構観察表 (Pit)	24
第 9 表	SX4 出土遺物観察表	17	第 20 表	出土遺物組成表	25
第 10 表	SX4・6A・6B・24・25 遺構観察表	17			
第 11 表	SX12・16 遺構観察表	18			

第Ⅰ章 調査に至る経緯

本書は、高崎市下豊岡町 1271 番地における宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書である。

平成 19 年 12 月、個人（以下事業者）から高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地造成予定地の埋蔵文化財の状況についての照会があった。市教委は、該当の場所が平安時代集落跡として遺跡台帳に登録された埋蔵文化財包蔵地内にあるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

平成 19 年 12 月 26 日、市教委は工事予定地の確認調査を実施し、平安時代住居跡等の遺構を確認した。

市教委は、埋蔵文化財の保護について事業者と協議を重ねたが、建設計画の変更は不可能とのことなので、事業者から提出された文化財保護法第 93 条第 1 項の規定による届出について、工事による埋蔵文化財の破壊が確実な旨の協議経過書を添えて群馬県教育委員会（以下県教委）へ進達した。平成 20 年 2 月 26 日付けで県教委は事業者へ工事前に発掘調査による記録保存を実施するよう指示を出した。

発掘調査は市教委の指導・監督の下、株式会社シン技術コンサルに委託して実施することとなった。

第Ⅱ章 調査の方法と経過

発掘調査は、工事予定地 133.62㎡に対して行なった。表土からⅢ層上面までをバックホウによって掘削し、Ⅲ層上面以下の土層をスコップ、ジョレン、移植ゴテなどを用い遺構確認・遺構掘削を行なった。作図作業はトータルステーションを使用し、検出された遺構の平面図・エレベーション図のほか必要に応じて土層断面図や遺物微細図などを記録した。出土遺物は、遺構の底面から出土した遺物のみトータルステーションによって出土地点を記録して取上げ、それ以外の遺物は基本的に出土グリッドまたは出土遺構の情報のみ記録して取り上げた。写真記録は、35mm モノクロネガ・同リバーサルフィルムを使用し、一部デジタルカメラを補完的に使用した。

グリッドについては、南接する豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡で設定したグリッドを北側に延長して使用し、日本測地系第Ⅸ系座標軸を用いて 5 m の方眼を組んだ。グリッドの名称は、南北方向をアルファベット（本調査区では、北から x、y、z、A、B、C）、東西方向をアラビア数字（本調査区では、西から 8、9）とし、この組み合わせをグリッド名とした。なお、グリッド名は、グリッドの北西角を基点とした。

調査経過については、以下にまとめる。

平成 20 年

3 月 3 日	基準杭設定。機材搬入。
3 月 4 日	準備工。バックホウによる表土掘削。
3 月 5 日～17 日	遺構確認。遺構調査。
3 月 18 日	写真清掃の後、全体撮影。機材搬出。
3 月 19 日	遺構調査終了。
3 月 24 日	調査区の埋め戻し。調査完了。

第Ⅲ章 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

下豊岡後原Ⅲ遺跡は、高崎市街から烏川を挟んで北西約 3.5km 離れた豊岡地区に所在し、遺跡の北北西に榛名山、西に妙義山、北東に赤城山を望む位置にある。遺跡の標高は約 104m、遺跡の北側を流れる烏川との比高差はおよそ 10 m となる。烏川は、榛名山麓を南東方向に流れ、高崎市街地の西部で碓氷川を合わせて南流し、利根川に合流する。遺跡の立地する八幡台地は、烏川と碓氷川に挟まれた三角形の洪積台地で、関東ローム層の良好な堆積が認められる。台地の南側は、碓氷川による浸食崖と表土下に河川堆積物がのる碓氷川低地帯が形成されている。

2. 歴史的環境 (第 1・2 図)

遺跡が立地する八幡台地を中心に、八幡台地付近の烏川・碓氷川流域を含む周辺地域での遺跡分布について述べる。八幡台地では、縄文時代中期以降の集落や古墳が数多く確認されている。それ以前の遺跡では、縄文時代草創期と考えられる石器や縄文時代前期の遺物が出土した八幡中原遺跡 (9)、八幡遺跡 (14) があげられるが、遺跡数が少ないため、縄文時代中期以前の遺跡については不明な点が多い。

本遺跡周辺では、縄文時代中期後葉～後期初頭の時期に集落遺跡が散見される。八幡台地では、竪穴住居跡 22 軒と敷石住居 1 軒が検出された若田遺跡 (7) のほか、大島原遺跡 (6) や剣崎稻荷塚遺跡 (4)、豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡 (1) で住居跡が検出されている。また、碓氷川を挟んで対岸の観音山丘陵では、太平台遺跡 (18) が集落遺跡として知られる。続く縄文時代後期中葉～晩期、そして弥生時代中期前半までの間、周辺地域では、遺物包含層だけが確認される遺跡が数ヶ所あるが、遺構が検出された遺跡は現在まで確認されていない。

弥生時代中期後半以降では、烏川左岸などの限られた地域で集落遺跡が確認され、高崎城遺跡 (20)、巾遺跡 (22)、上並榎屋敷前遺跡 (23)、上並榎南遺跡 (24) が代表的な遺跡として知られる。八幡台地での集落遺跡は、引間遺跡 (2)、四ノ市遺跡 (11)、八幡遺跡 (14) など、後期後半以降に増加する傾向が認められる。なお、集落の存続期間からみると、烏川左岸では中期～後期で集落が断絶する遺跡が多いのに対し、八幡台地では後期後半～古墳時代前期まで集落が維持される遺跡が多い点で差異がみられる。こうした傾向は、弥生時代中期～後期前半と後期後半～古墳時代前期での集落選地の志向性に変化があったことに起因するとみられる。

古墳時代になると、烏川と碓氷川流域一帯に多くの大小古墳の存在が確認される。この古墳群中で初源的な形を持ち、5 世紀後半に築造されたと考えられるものに、剣崎天神山古墳 (3) や剣崎長瀬西古墳 (5) などがある。続く 6 世紀の古墳では、前方後円墳である観音塚古墳 (10) や平塚古墳 (12)、二子塚古墳 (13) があげられる。このほか、6～7 世紀の古墳として、若田遺跡 (7) で確認され、県史跡として保存整備された円墳に大塚古墳 (竪穴式石室)・峯林古墳 (横穴式石室) がある。終末期の古墳では、玄室から和銅開珎が出土した引間遺跡の 2 号墳、銚帯が出土した八幡遺跡の 1 号墳があげられる。

古墳時代以降の集落遺跡の立地は、八幡台地や烏川左岸、井野川右岸など広い範囲で分布が認められるようになり、弥生時代までのような地域的に偏在する傾向は薄れるように思われる。こうした傾向は、縄文時代や弥生時代でみた遺跡で、古墳時代や奈良・平安時代の遺構・遺物が多く検出されていることにもあらわれる。八幡台地上で確認された遺跡では、古墳時代～奈良・平安時代の住居 176 軒、掘立柱建物 36 棟が検出された八幡中原遺跡や、弥生時代の住居跡が 52 軒、古墳時代の住居が 43 軒、奈良・平安時代の住居跡が 13 軒検出された八幡遺跡などがあり、調査面積の広い遺跡の多くが複合遺跡となっている。

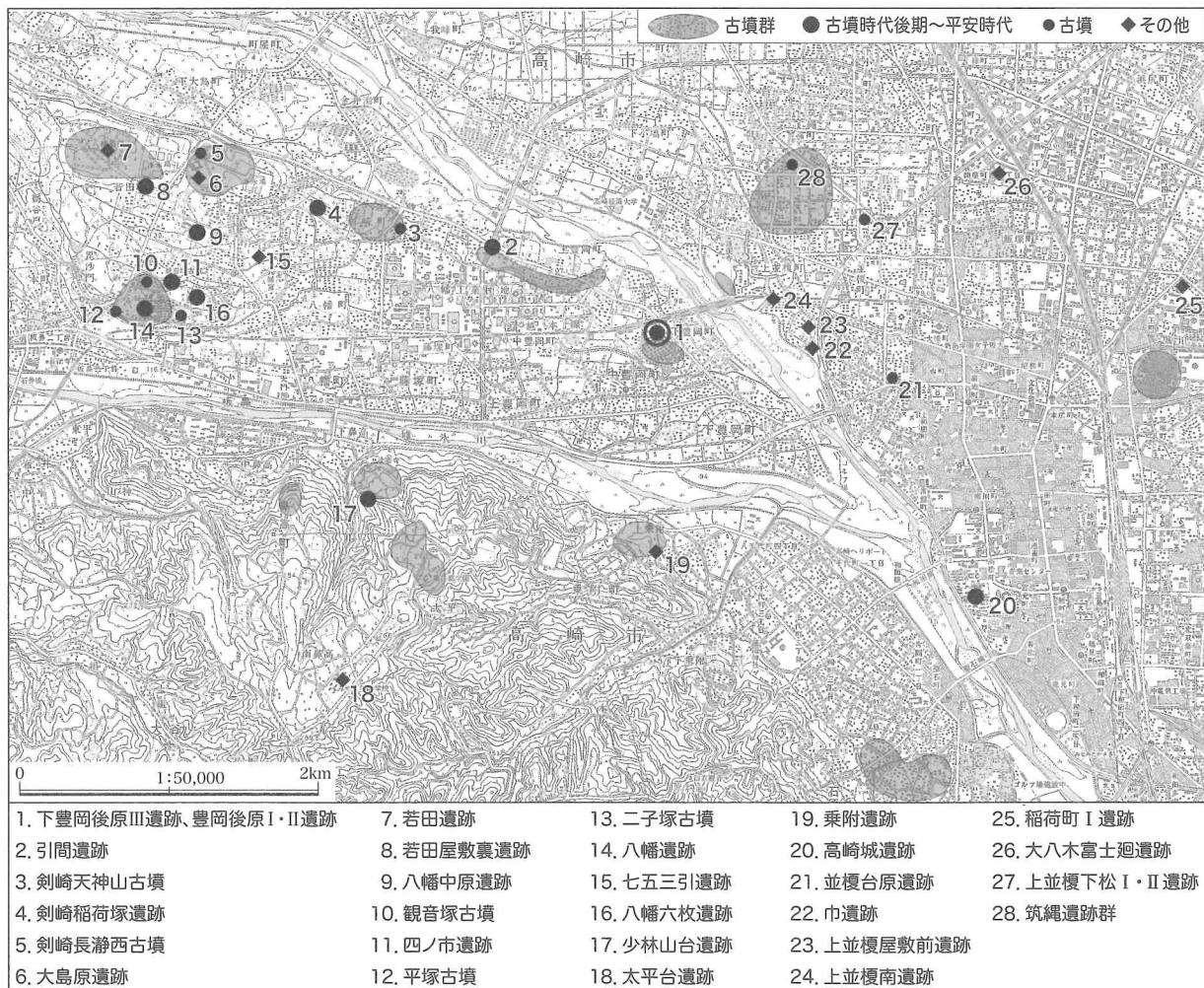
奈良・平安時代の集落遺跡として、本遺跡や上記の八幡遺跡、八幡中原遺跡、若田遺跡、引間遺跡、高崎城遺跡のほか、剣崎稲荷塚遺跡（4）、若田屋敷裏遺跡（8）、少林山台遺跡（17）などがあげられる。

八幡台地は古代において上野国片岡郡であったとされ、「和名類聚抄」によれば、片岡郡は若田・多胡・高渠・佐没・長野の五郷より成っていたことが記されている。若田郷は八幡台地の東部（現在の若田町付近）、長野・佐没郷は烏川と碓氷川合流点より下流地域に比定されている。遺跡の位置する豊岡地区は、なお不明な点が多いが、多胡郷に属していたことが指摘されている（松田 2004）。また、7世紀に官道として整備された東山道は、安中市の野後駅から八幡台地を通過して国府付近の群馬駅を結ぶルートが知られるが、近年の調査によって、野後駅から直接、新田駅を結ぶルートがあった可能性がある。このように当台地は、東山道の推定ルートが通過した場所と推測されていることから、古代における交通の要衝であったことが窺える。



第1図 東山道推定概略図

「群馬県史」（通史編2 原始古代2 図22）を一部編集して使用。



国土地理院 25,000 分の 1 数値地図「下室田」を使用。

第2図 烏川・碓氷川周辺の古墳・集落遺跡

第Ⅳ章 基本層序

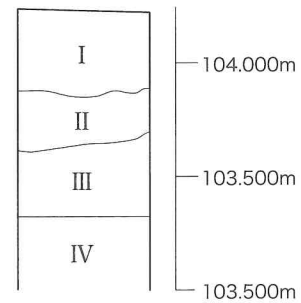
本調査区では、調査区壁の土層観察から4枚の土層が確認された。以下、観察所見について述べる。

I層：黒褐色土（5YR3/1）粘性・しまり弱。白色粒（ $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ）を多量に含む。現代耕作土。

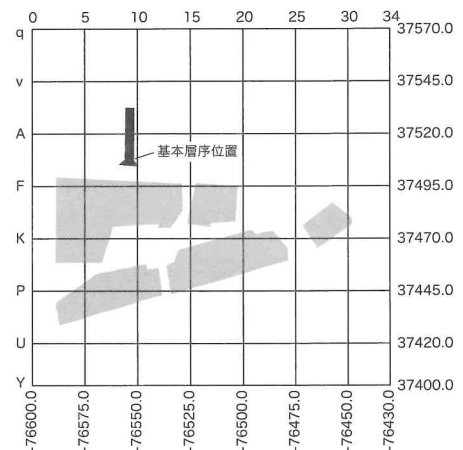
II層：黒褐色土（5YR3/1）粘性・しまり弱。白色粒（ $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ）、礫（ $\phi 1 \sim 10\text{cm}$ ）を多く含む。古代の遺物を含む遺物包含層であり、いくつかの遺構の構築面ともなる。

III層：褐色土（10YR4/6）粘性・しまりややあり。黄褐色粒子（ $\phi 5\text{mm}$ 程度）を含み、黒褐色土や黄褐色土がブロック状に混在する。浅間C火山灰に対比される白色軽石を多量に含む。本遺跡の遺構確認面である。

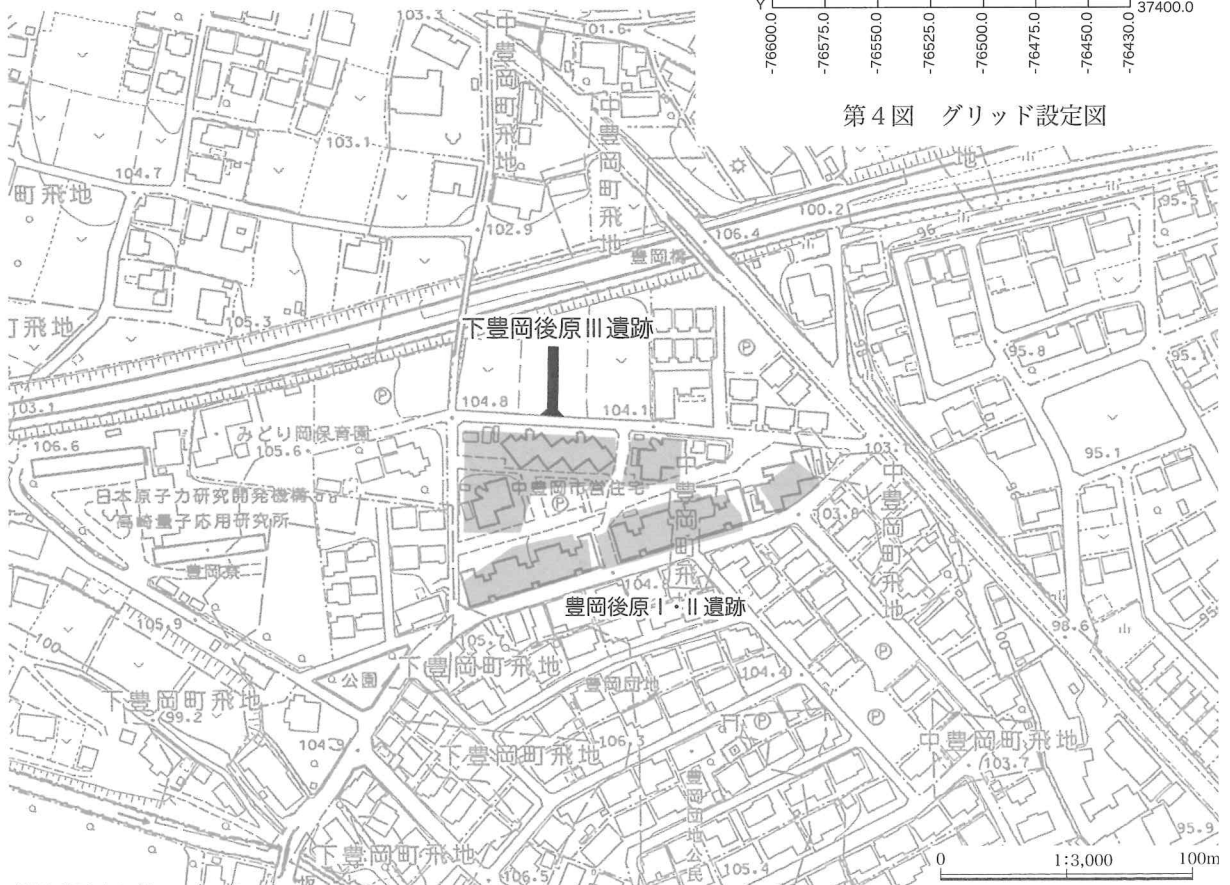
IV層：黄褐色土（10YR7/6）粘性あり。しまりやや強。浅間板鼻黄色軽石を含むと推測されるローム層である。



第3図 基本層序



第4図 グリッド設定図



第5図 調査区位置図

第Ⅴ章 検出された遺構と遺物

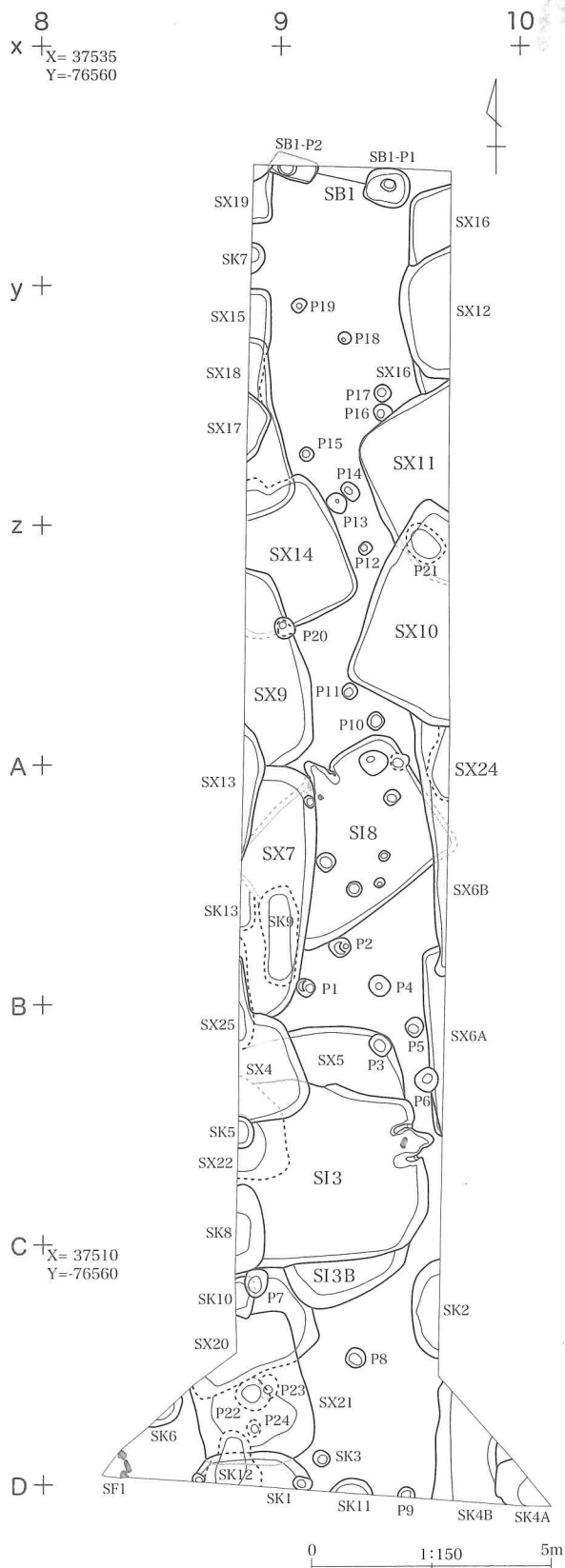
本調査では、竪穴住居跡 2 軒、掘立柱建物跡 1 棟、竪穴状遺構 21 基、土坑 14 基、焼土範囲 1 ヶ所、ピット 24 基が検出された。竪穴状遺構とした遺構の中には、SX10 や SX11、SX14 のような方形を呈する住居跡に類似する遺構が含まれる。これらは、調査区の幅が狭いことから遺構の全容が不明なものが多く、方形を呈する竪穴状遺構との区別が困難なことから、竪穴住居跡とは判断できなかったものである。こうした諸点の事情から、本報告ではカマドおよび明確な貼床を伴うものを住居跡とし、この要件に満たない住居状の遺構は竪穴状遺構として扱った。なお、遺構名は、遺構種別ごとに番号を付したが、竪穴住居跡と竪穴状遺構は、連番で遺構番号を付した。

検出された遺構は、出土遺物の内容から、古墳時代終末期～奈良・平安時代に所属し、7 世紀半ば～8 世紀前半と 9 世紀～10 世紀の二つの時期にピークがみるものと考えられる。遺構検出は、すべてⅢ層上面で行なったが、調査区壁の観察から、Ⅲ層上面のほかにⅡ層上面でも遺構の存在が確認された。

Ⅲ層上面での遺構は、7 世紀～10 世紀、Ⅱ層上面での遺構は、10 世紀以降に帰属する遺構と推測される。

出土遺物は、縄文時代中期後葉、古墳時代終末期～奈良・平安時代に帰属する土器、石器、瓦、土製品、石製品、鉄器が確認された。7 世紀半ば～8 世紀前半に比定されるものが大半であり、9～10 世紀に位置づけられるものが次ぐ。なお、南接する豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡で確認された古墳時代前期と中世の遺構・遺物については、本調査区からは確認できなかった。これらの時期の遺跡は、本遺跡とは異なる地点にあったものと考えられる。

以下、本調査によって、検出された遺構と出土遺物の内容について記述する。なお、紙数の都合上、住居跡・掘立柱建物跡と重要と思われる竪穴状遺構について詳述し、その他の竪穴状遺構や土坑、焼土範囲、ピットについては遺構観察表で記載した。



第 6 図 遺構配置図

1. 主要遺構

(1) 竪穴住居跡

SI3・SI3B・SX5 (第7～9図 第1表 PL. 2・5)

位置 B・C-8・9グリッドで検出され、遺構の西側は調査区外に位置する。SX4・5・22、SK5・8、P3より古く、SI3B、SX20より新しい。ここでは、SI3とこれに関係するSI3B、SX5を合わせて図示する。

形状・規模 軸は、N-75°-Eを示し、平面形は方形ないしは長方形と思われる。遺構規模は、東西辺4.02m以上、南北辺3.84m、床面までの深さは0.42mを測る。壁は上方が外側に向かって広がっており、壁溝は確認されなかった。掘方の深さは床面から0.18mを測り、床面は4層上面と、5層上面でも硬化面が確認された。

カマド 住居東壁の北側西寄りに位置する。燃焼部は壁内に位置し、奥行き0.78m、幅0.63mである。

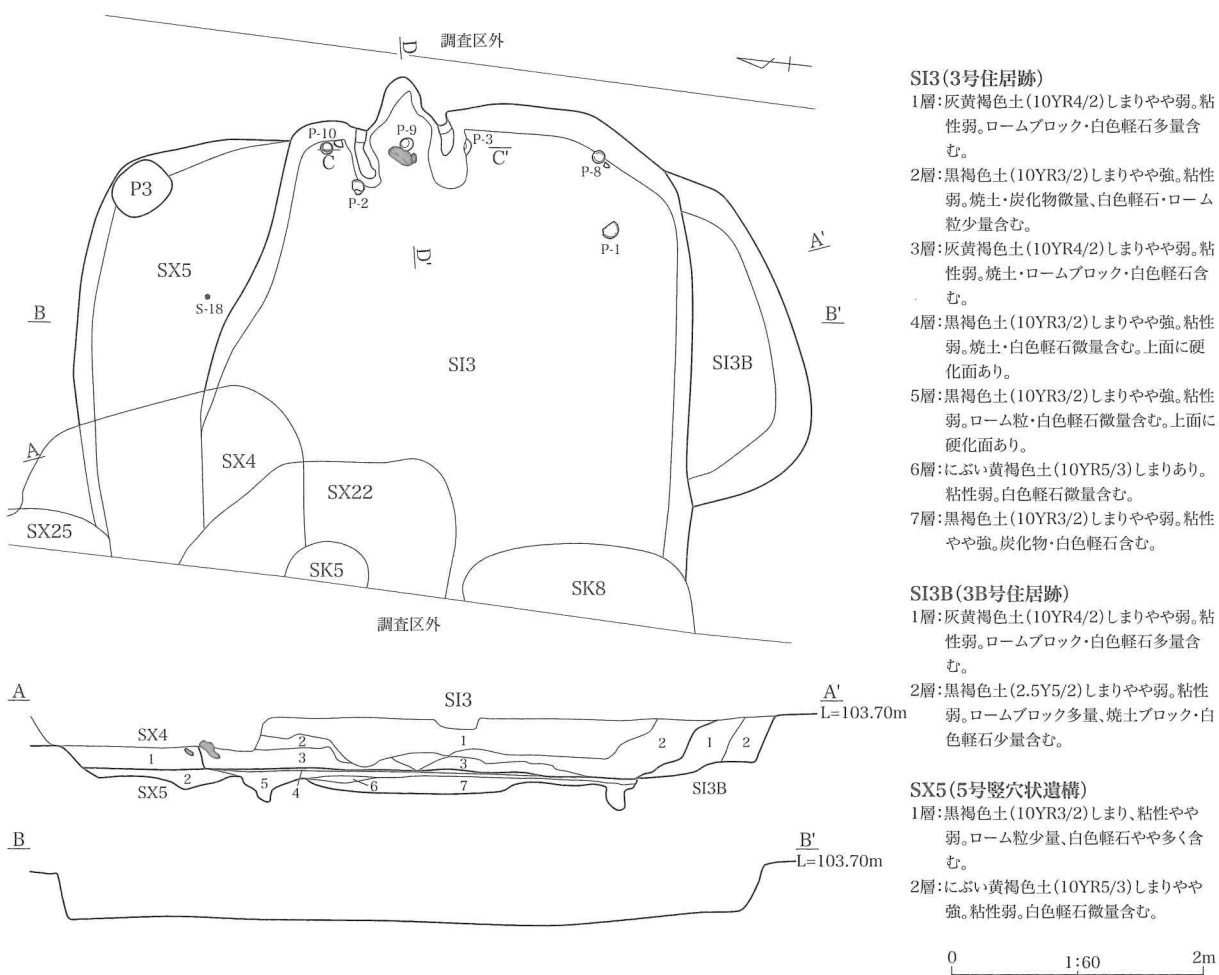
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

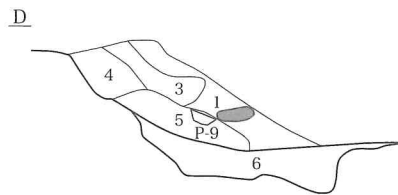
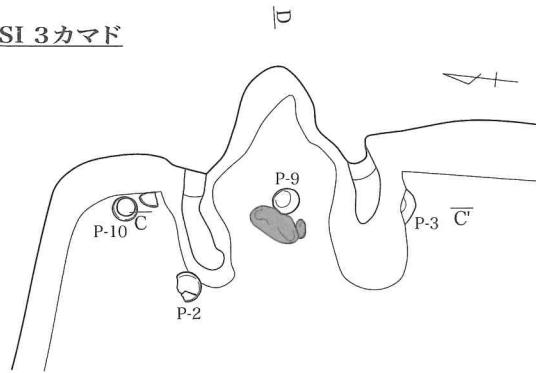
出土遺物 遺構覆土からは、坏や甕の破片など多数の遺物が出土した。遺物の帰属時期は7世紀後半～9世紀後半と時期幅が広く、重複する遺構覆土からの流入や遺構埋没過程に混入した結果と考えられる。一方、カマド周辺の床面直上からは、7世紀末～8世紀前半に帰属する遺物が良好な遺存状態で出土している。

時期 床面出土遺物から7世紀末～8世紀前半の遺構と考えられる。

SI3・SI3B・SX5

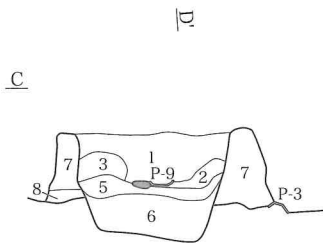


SI 3カマド



D'
L=103.60m

0 1:30 1m

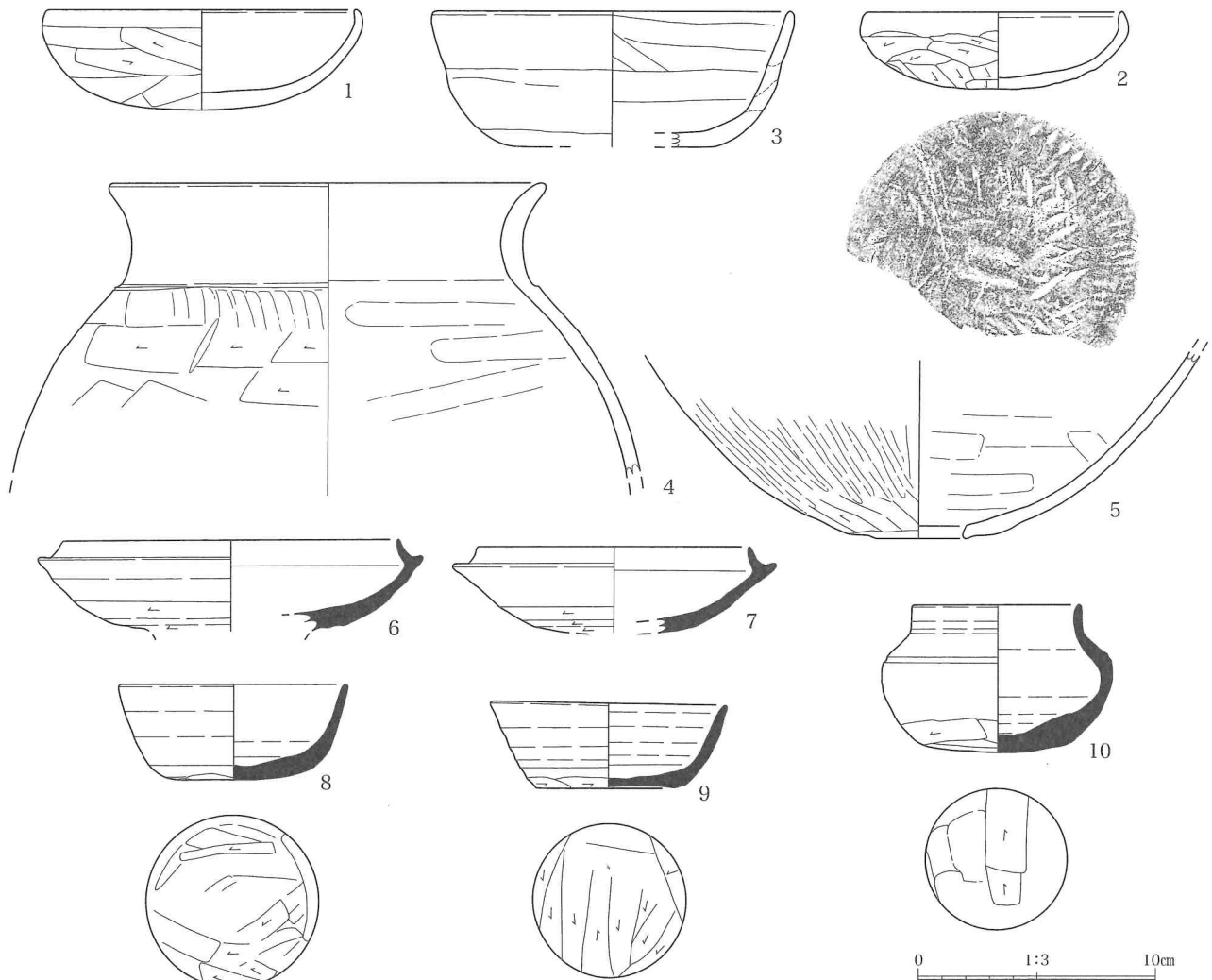


C'
L=103.60m

SI3カマド

- 1層:暗褐色土(10YR3/3)しまりやや強。粘性弱。ローム粒・焼土・白色軽石少量含む。
- 2層:黒褐色土(2.5Y5/2)しまりやや強。粘性弱。ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒含む。
- 3層:暗灰黄色土(2.5YR5/4)しまりやや強。粘性やや弱。ロームブロック・焼土粒・焼土ブロック含む。
- 4層:暗褐色土(10YR3/3)しまりやや強。粘性弱。ローム粒・焼土・白色軽石少量含む。
- 5層:暗青灰色土(10BG4/1)しまりやや弱。粘性弱。ローム粒・焼土粒含む。
- 6層:にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまり、粘性弱。ローム粒・焼土粒・炭化物含む。
- 7層:橙色土(2.5YR6/6)しまりやや弱。粘性弱。
- 8層:暗青灰色土(10BG4/1)しまり、粘性やや弱。ローム粒・焼土粒含む。

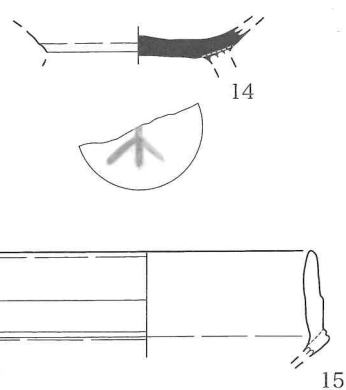
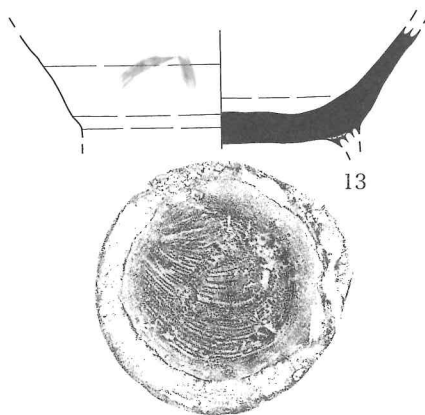
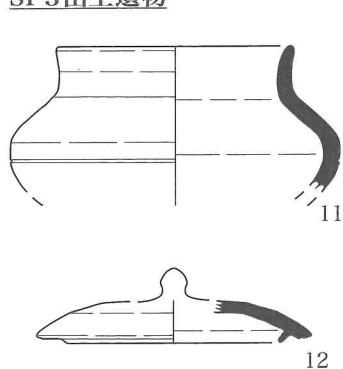
SI 3出土遺物



0 1:3 10cm

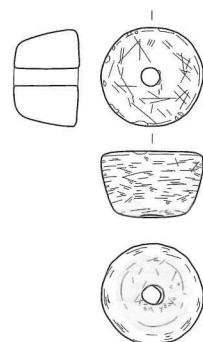
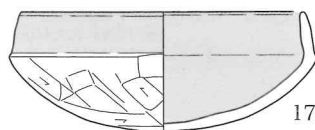
第8図 SI3 カマド、SI3 出土遺物

SI 3出土遺物



SI 3B 出土遺物

SX 5出土遺物



0 1:3 10cm

第9図 SI3・3B・SX5 出土遺物

第1表 SI3・SI3B・SX5 出土遺物観察表

図No	種別 器種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
1	土師器 杯	SI3 床直	口径:13.0・器高:4.2・底径:4.2・最大径:13.4 口縁部一部欠損/橙色・普通	石英、角閃石、 雲母	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面:ナデ。
2	土師器 杯	SI3 床直	口径:10.7・器高:3.2・底径:—・最大径:11.3 口縁〜底部2/3残存/にぶい橙・普通	石英、長石、 雲母	外面:口縁部ヨコナデ。体部〜底部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ。
3	土師器 杯	SI3 カマド内	口径:(15.0)・器高:5.7・底径:(8.3)・最大径:— 口縁〜底部1/2残存/灰白色・普通	石英、小礫	外面:輪痕残る。 内面:ヨコナデ。
4	土師器 甕	SI3 覆土	口径:(18.0)・器高:(12.0)・底径:—・最大径:26.3 口縁〜胴部上位1/4残存/浅黄橙・普通	石英、角閃石、 雲母	外面:口縁部ヨコナデ。胴上部縦位ケズリ、横位ケズリ。 内面:ヘラナデ。
5	土師器 甕	SI3 覆土	口径:—・器高:(7.9)・底径:3.7・最大径:— 胴部下端〜底部1/2残存/明黄褐色・普通	石英	外面:縦位ヘラケズリ。底部穿孔?。 内面:ヨコナデ。
6	須恵器 高杯	SI3 覆土	口径:(14.0)・器高:(3.8)・底径:—・最大径:— 口縁〜体部片1/4残存/灰色/良好	黒色粒	外面:口縁部かえり有。体部下端ヘラケズリ。 内面:ヨコナデ。
7	須恵器 杯	SI3 覆土	口径:(13.4)・器高:(3.6)・底径:—・最大径:— 体部〜底部破片/灰色/良好	小礫	外面:ロクロ整形。体部下位ヘラケズリ。口縁部かえり有。 内面:ロクロ調整。
8	須恵器 杯	SI3 床直	口径:9.4・器高:4.0・底径:—・最大径:— 略完形/灰黄色・普通	石英、雲母	外面:ロクロ整形。底部手持ちヘラケズリ。 内面:ロクロ整形。
9	須恵器 杯	SI3 床直	口径:10.0・器高:3.7・底径:6.3・最大径:— 口縁一部欠損/にぶい赤褐色・良好	白色粒	外面:ロクロ整形。体部下端横位ヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。 内面:ロクロ整形。
10	須恵器 短頸壺	SI3 床直	口径:7.0・器高:6.2・底径:6.0・最大径:9.7 完形/灰白色/良好	石英、長石、 雲母	外面:ロクロ整形。胴部沈線1条。胴部下位〜底部ヘラケズリ。黒斑有。 内面:ロクロ整形。
11	須恵器 短頸壺	SI3 覆土	口径:(9.2)・器高:(5.8)・底径:—・最大径:13.0 口縁部〜体部1/2残存/灰色・良好	石英、長石	外面:ロクロ整形。胴部横位ヘラケズリ。胴部浅い沈線1条。 内面:ロクロ整形。
12	須恵器 蓋	SI3 覆土	口径:11.0・器高:1.3・底径:—・最大径:— 天井部〜口縁1/10破片/灰白色・普通	石英、小礫	外面:ロクロ整形。天井部ヘラケズリ。宝珠鈕?。 内面:ロクロ整形。
13	須恵器 壺	SI3 床直	口径:—・器高:(4.7)・底径:—・最大径:— 体部〜底部破片/灰黄色・普通	石英、小礫	外面:ロクロ整形(左回転)。底部糸切り後周辺回転ヘラナデ。 高台貼付。体部外面に「東」?の墨書。内面:ロクロ整形。
14	須恵器 高台付埴	SI3 覆土	口径:—・器高:(1.5)・底径:—・最大径:— 底部1/4残存/灰色・普通	長石、黒色粒	外面:ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り。底部外面に「東」? の墨書。内面:ロクロ整形。
15	土師器 杯	SI3 床下	口径:(13.0)・器高:(4.2)・底径:—・最大径:— 口縁〜底部1/10残存/橙色・普通	角閃石	外面:口縁〜体部ヨコナデ。底部ヘラケズリ。口縁部弱内傾2段形状。 内面:口縁〜体部ヨコナデ。底部ナデ。
16	土製品 土錘	SI3 覆土	長軸長:4.0・短軸長:1.7・孔径:0.8・重量:9.81 完形/暗灰黄色・普通	雲母、小礫	外面:ナデ。
17	土師器 杯	SI3B 覆土	口径:(11.1)・器高:4.7・底径:—・最大径:— 口縁〜底部1/4残存/浅黄色・普通	石英、雲母	外面:口縁部ヨコナデ。底部手持ちヘラケズリ。 内面:口縁〜体部ヨコナデ。底部ナデ。黒色処理。
18	石製品 紡錘形石製品	SX5 遺構底面	長軸長:3.0・短軸長:2.6・厚:4.1・重量:71.03 完形/暗緑色	—	全面研磨。裏面に光沢あり。表面、側面に擦痕あり。 石材:閃緑岩、比重値:2.828

SI8 (第10・11図 第2表 PL. 2・5)

位置 z・A-8・9グリッドで検出され、遺構の西隅と東隅は調査区外に位置する。SX6B・7・13、SK9より古く、SX23より新しい。本遺構の床面精査時に8基のピットが検出されたが、この中で、SI8-P2・P3・P5は本遺構埋没後のピットの可能性が高い。

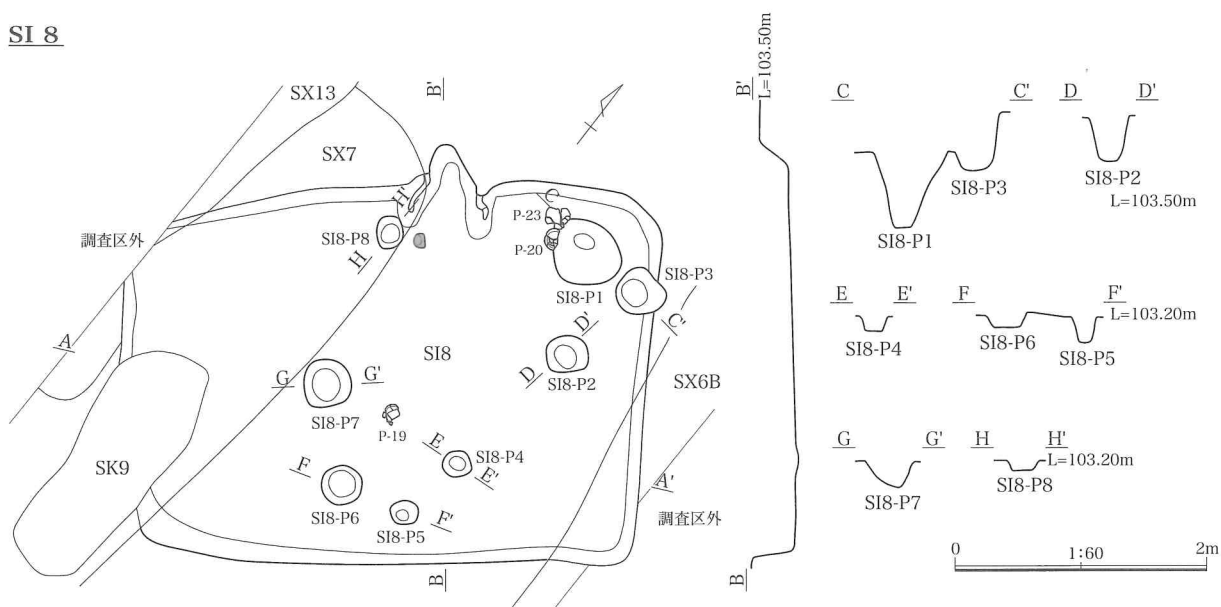
形状・規模 主軸は、N-42°-Wを示し、平面形は長方形を呈す。東西辺4.2m、南北辺3.1m、床面までの深さは0.42mを測る。壁は外側に向かって広がっており、壁溝は確認されなかった。

カマド 住居北西壁の中央に構築される。燃烧部は壁内に位置し、奥行き0.69m、幅0.57mである。

貯蔵穴 北東隅で検出されたSI8-P1が貯蔵穴の可能性が高い。

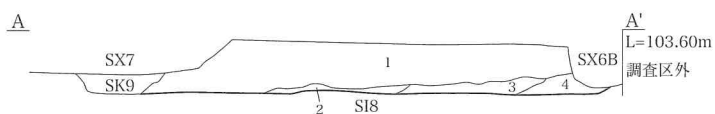
柱穴 SI8-P2～P8が検出されたが、本住居に伴う柱穴であるかは不明である。

SI 8

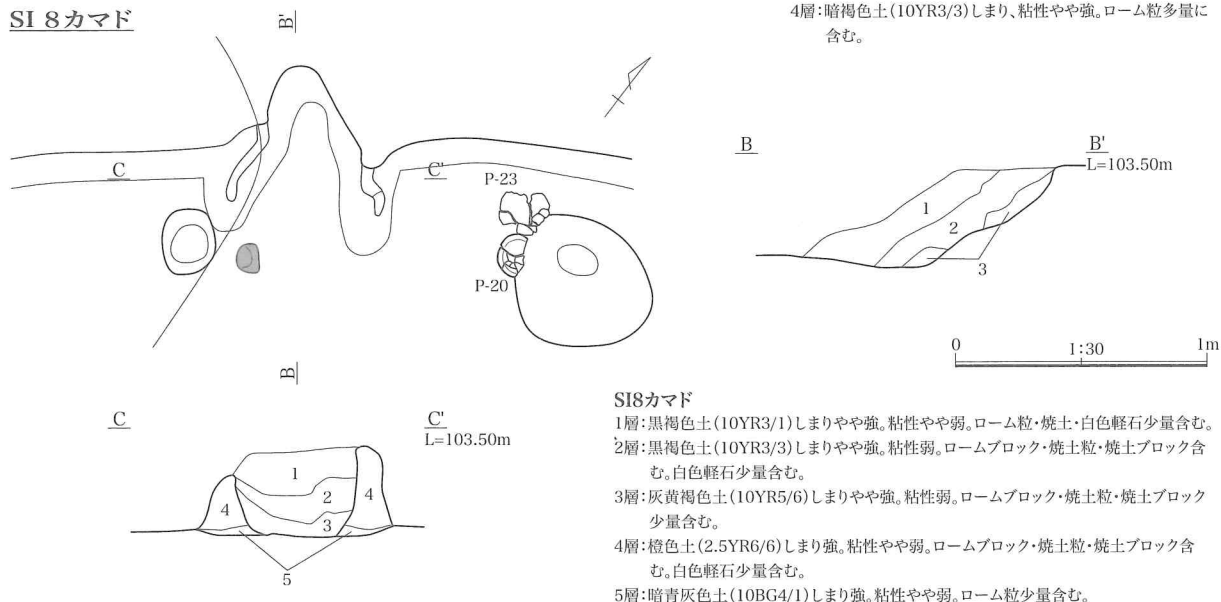


SI8(8号住居跡)

- 1層: 黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性やや弱。ロームブロック・白色軽石多量に含む。
- 2層: 黒褐色土(10YR3/2)しまりやや強、粘性やや弱。白色軽石少量含む。
- 3層: 黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性やや強。ロームブロック多量、白色軽石ごく少量含む。
- 4層: 暗褐色土(10YR3/3)しまり、粘性やや強。ローム粒多量に含む。



SI 8カマド



SI8カマド

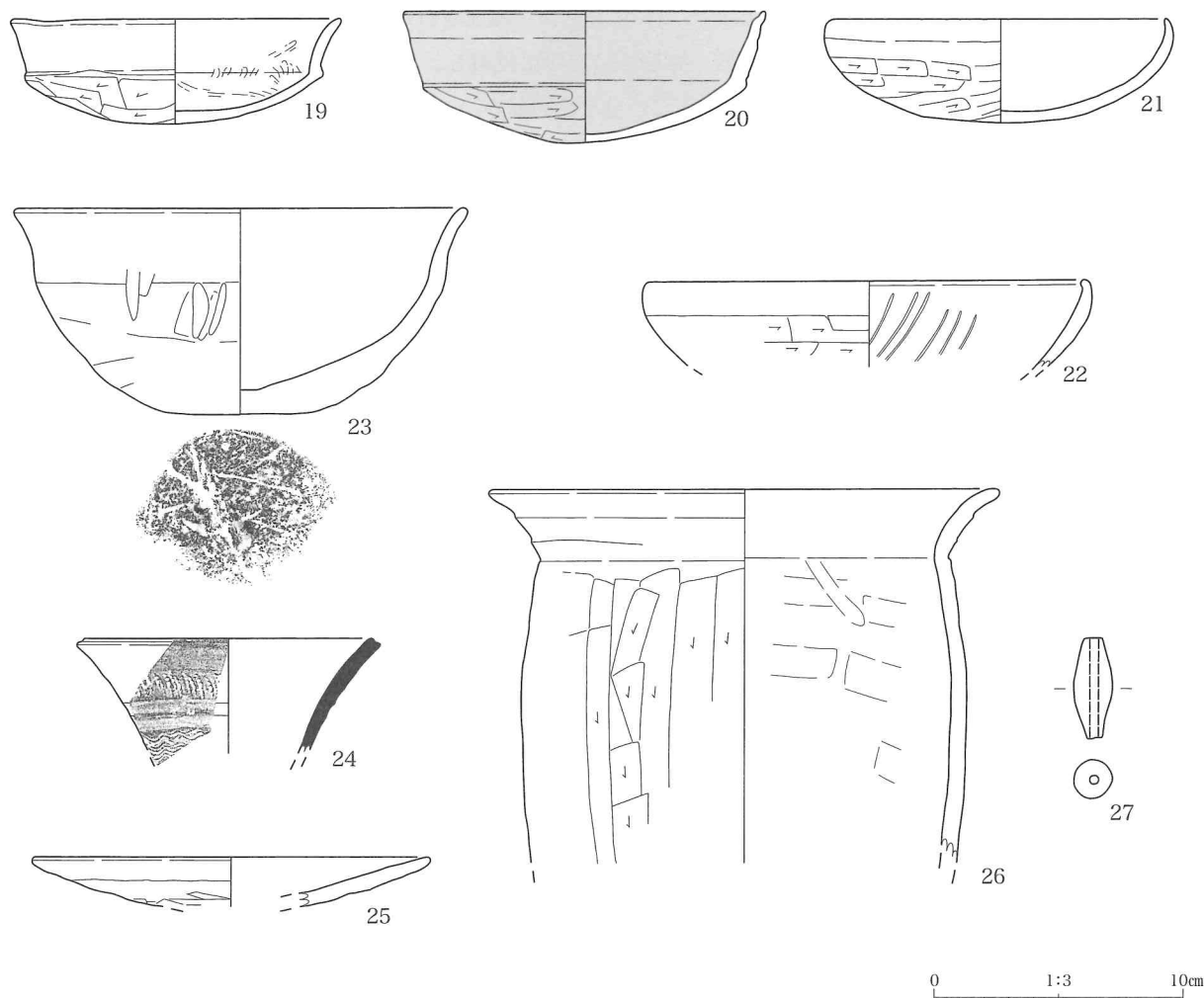
- 1層: 黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強。粘性やや弱。ローム粒・焼土・白色軽石少量含む。
- 2層: 黒褐色土(10YR3/3)しまりやや強。粘性弱。ロームブロック・焼土粒・焼土ブロック含む。白色軽石少量含む。
- 3層: 灰黄褐色土(10YR5/6)しまりやや強。粘性弱。ロームブロック・焼土粒・焼土ブロック少量含む。
- 4層: 橙色土(2.5YR6/6)しまり強。粘性やや弱。ロームブロック・焼土粒・焼土ブロック含む。白色軽石少量含む。
- 5層: 暗青灰色土(10BG4/1)しまり強。粘性やや弱。ローム粒少量含む。

第10図 SI8、SI8 カマド

出土遺物 遺構覆土からは、須恵器の坏・蓋・甕・鉢、土師器の坏・甕・盤など7世紀後半～9世紀に帰属する遺物が出土した。カマド周辺の床面直上からは、坏（20）鉢（23）が出土している。

時期 床面出土遺物から7世紀後半～8世紀前葉の遺構と考えられる。

SI 8出土遺物



第 11 図 SI8 出土遺物

第 2 表 SI8 出土遺物観察表

図No.	種別 器 種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎 土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
19	土師器 坏	SI8 床直	口径:13.1・器高:4.2・底径:—・最大径:(13.3) 口縁～底部3/4残存/橙色・普通	石英、長石、 雲母	外面:口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。体～底部ヘラミガキ。
20	土師器 坏	SI8 床直	口径:(14.4)・器高:5.3・底径:—・最大径:— 口縁～底部3/5残存/にぶい橙色・良	長石、角閃石、 雲母	外面:口縁部ヨコナデ。底部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。
21	土師器 坏	SI8 覆土	口径:(14.6)・器高:3.9・底径:—・最大径:(15.0) 口縁部～体部1/6残存/橙色・普通	石英、長石、 角閃石、雲母	外面:口縁部ヨコナデ。体部上半未調整。体部下半～底部ヘラケズリ。 内面:口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
22	須恵器 坏	SI8 覆土	口径:(17.9)・器高:(3.5)・底径:—・最大径:— 口縁～底部1/10残存/橙色・普通	石英、雲母	外面:口縁部ヨコナデ。体～底部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ。暗文。
23	土師器 鉢	SI8 床直	口径:18.0・器高:8.3・底径:4.0・最大径:— 口縁1/2残存～底部全周/にぶい黄橙色・不良	石英、角閃石、 雲母、小礫	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ。底部木葉痕。 内面:口縁部ヨコナデ。体部～平底ヨコナデ。黒色。
24	須恵器 長頸壺	SI8 覆土	口径:(12.2)・器高:(4.6)・底径:—・最大径:— 口縁部破片/灰色・普通	角閃石、雲母	外面:ロクロ整形。 内面:ロクロ整形。
25	土師器 高坏	SI8 覆土	口径:(15.8)・器高:(2.0)・底径:—・最大径:— 坏部破片/灰黄色・普通	石英、雲母、 小礫、シャモト	外面:口縁部ヨコナデ。坏部下半ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ。
26	土師器 甕	SI8 覆土	口径:(20.2)・器高:(15.0)・底径:—・最大径:— 口縁部～胴部1/5残存/にぶい赤褐色・普通	石英、角閃石、 雲母	外面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
27	土製品 土鍾	SI8 覆土	長軸長:4.0・短軸長:4.0・孔径:0.9・重量:8.40 完形/明黄褐色・普通	石英	外面:ナデ。 内面:ナデ。

(2) 掘立柱建物跡

本調査では、P1～P6やP10・P11・P20、P15～P19のように、ピットの集中がいくつかの箇所で確認された。このことから、検出されたピットのいくつかは、建物跡の一部である可能性が考えられる。しかしながら、調査区が狭いこともあり、柱穴配置を特定できなかった。ここでは柱痕跡が確認されたことで、柱穴であることが特定でき、ピットの長軸方向で列となることで建物跡の可能性が高いSB1のみ掘立柱建物跡として報告する。

SB1 (第12図 第3表 PL, 2・3・5)

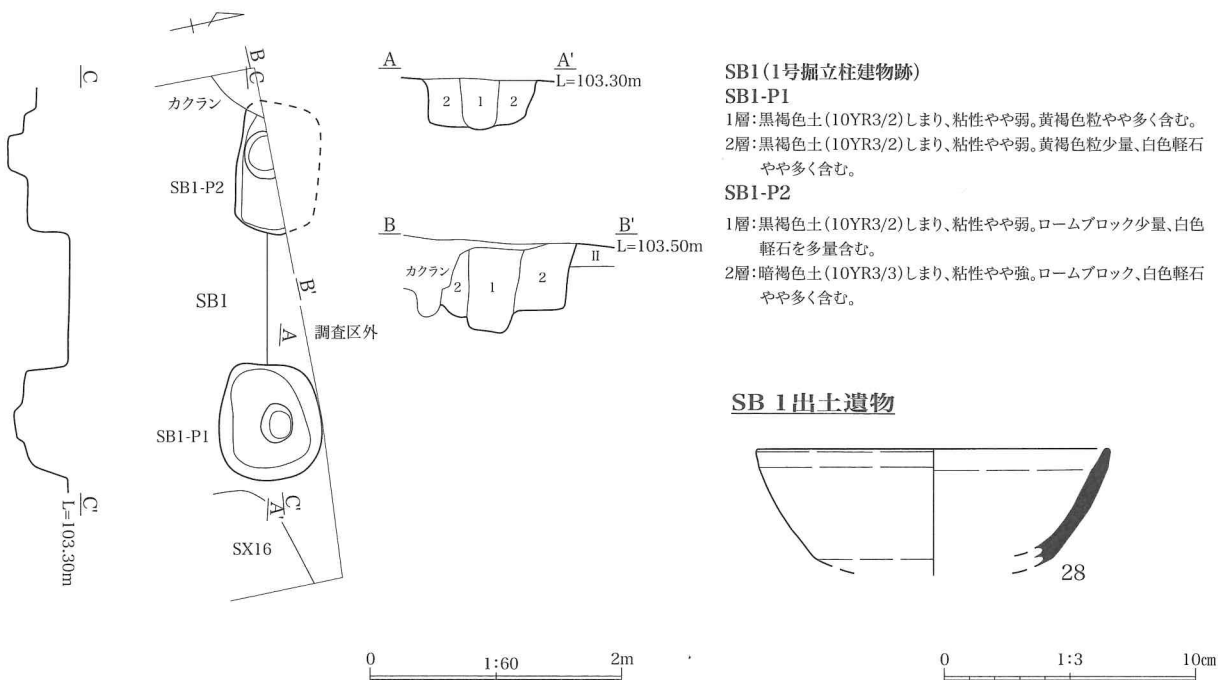
位置 x-8・9グリッドで検出された掘立柱建物跡である。遺構の北側は調査区外に位置する。SX19より新しく、Ⅱ層の堆積後に構築されたものと考えられる。

形状・規模 調査区内では、本遺構に対応する柱穴が確認されず、柱痕跡を残す2基の柱穴のみ検出された。柱穴の平面形状は、2基ともに長方形を呈し、柱間は2.1mを測る。柱穴の規模は、P1が長軸0.9m、短軸0.79m、深さ0.42m、P2は長軸1.02m以上、短軸0.48m以上、深さ0.36mを測る。

出土遺物 SB1-P1から須恵器の坏、土師器の坏・甕が出土した。また、SB1-P2から須恵器の坏1点が出土した。出土遺物は、8世紀前半、8世紀後半～9世紀に帰属する。

時期 本遺構の構築以前に堆積したⅡ層の堆積時期は、他の遺構との関係から10世紀以降まで下る可能性がある。このことから、本遺構時期も10世紀以降まで下ることが予想される。ただし、本調査区内での出土遺物には、10世紀以降の遺物数は少数であり、11世紀代の痕跡は確認できないことから、Ⅱ層堆積以降に構築された遺構の時期がどこまで下るかについての特定はできなかった。

SB1



第12図 SB1、SB1出土遺物

第3表 SB1出土遺物観察表

図No.	種別 器種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
28	須恵器 坏	SB1-P1 覆土	口径: (13.8)・器高: (4.7)・底径: 一・最大径: 一	長石、白砂粒	外面: ロクロ整形。 内面: ロクロ整形。
			口縁部～体部1/8残存/浅黄色・やや不良		

(3) 竪穴状遺構

SX 7 (第 13 図 第 4 表 PL. 3・6)

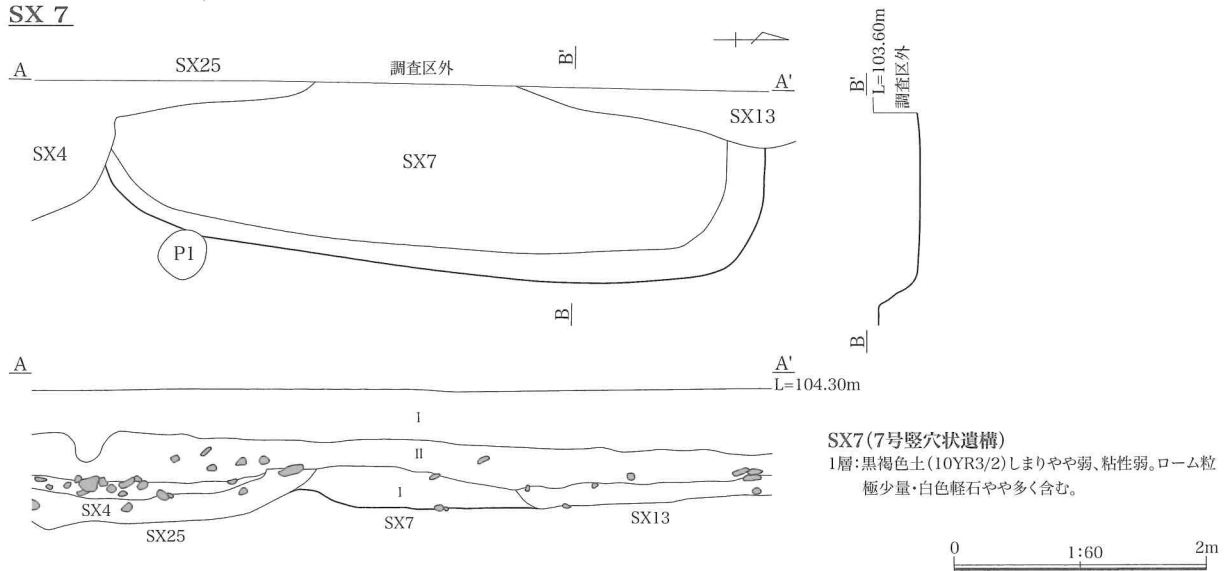
位置 z・a-8・9 グリッドで検出された竪穴状遺構である。遺構の西側は調査区外に位置する。SX4・13・25、P1 より古く、SI8、SX6・9 より新しい。調査区壁からⅢ層上面の遺構であることが確認された。

形状・規模 平面形は方形ないしは長方形と考えられる。東西辺 1.56m 以上、南北辺 5.22m 以上、深さ 0.3m を測る。壁は外側に向かって広がっている。壁溝は確認されなかった。

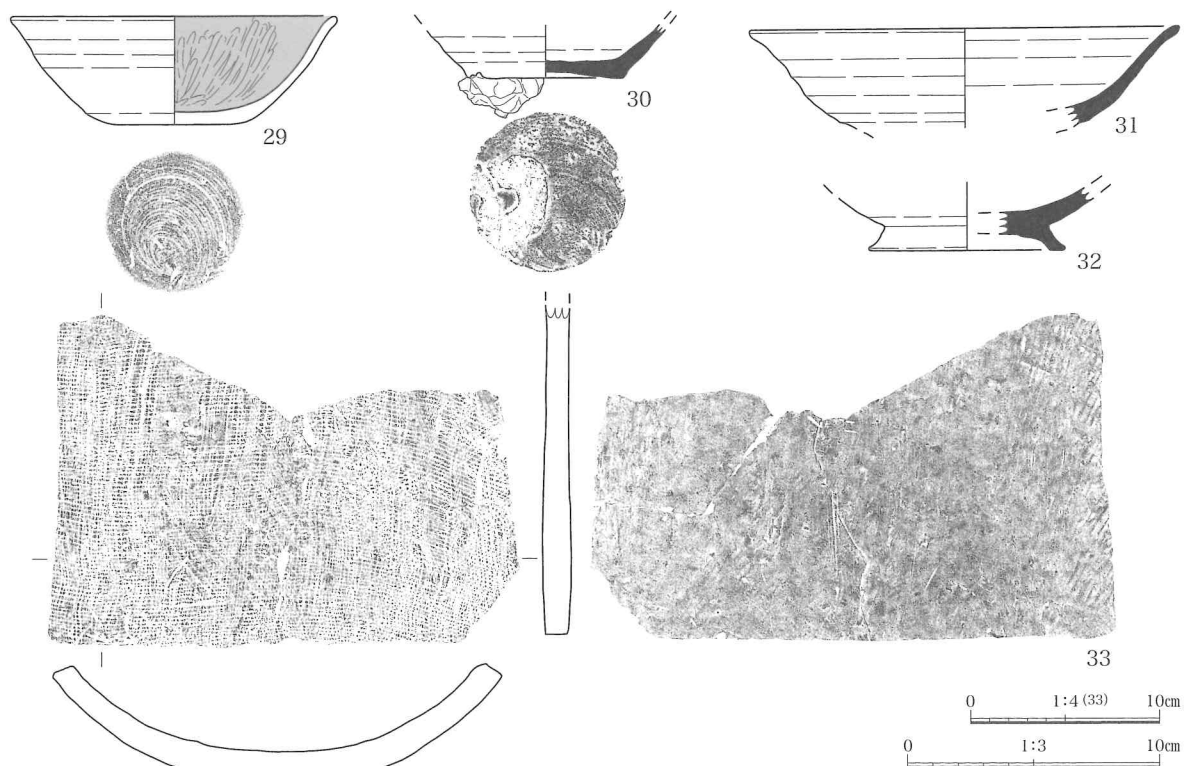
出土遺物 遺構覆土からは、須恵器の坏・蓋・皿・甕、土師器の坏・甕など 7 世紀前半～10 世紀に帰属する遺物が出土した。

時期 出土遺物および他遺構との新旧関係から、9～10 世紀の遺構と考えられる。

SX 7



SX 7 出土遺物



第 13 図 SX7、SX7 出土遺物

第4表 SX7 出土遺物観察表

図No.	種別 器種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
29	土師器 坏	SX7 覆土	口径: (12.8)・器高: 4.3・底径: 5.2・最大径: 一 口縁〜体部1/5・底部全周残存/橙色・良好	石英、長石、 白色粒	外面: ロクロ整形 (右回転)。底部回転系切り。 内面: ヘラミガキ後黒色処理。
30	須恵器 坏	SX7 覆土	口径: 一・器高: (2.1)・底径: 6.0・最大径: 一 体部下位1/5〜底部全周残存/灰色・普通	石英、黒色粒、 白色粒	外面: ロクロ整形 (右回転)。底部回転系切り。付着物有。一部自然釉。 内面: ロクロ整形。
31	須恵器 坏	SX7 覆土	口径: (17.0)・器高: (4.0)・底径: 一・最大径: 一 口縁〜体部1/4残存/灰色・普通	黒色粒	外面: ロクロ整形 (明瞭)。 内面: ロクロ整形。口縁外反。
32	須恵器 高台付埴	SX7 覆土	口径: (7.7)・器高: (2.1)・底径: 一・最大径: 一 体部〜底部1/5残存/灰白色・普通	石英	外面: ロクロ整形 (右回転)。底部回転系切 (?) 高台貼付。 内面: ロクロ整形。
33	瓦 平瓦	SX7 覆土	厚さ: 1.2〜1.5 広部1/2残存/暗灰色・やや良好	黒色粒	凹面: 一枚作り。 凸面: 平行叩き後、前面縦位ケズリ。

SX 9 (第14図 第5表 PL. 6)

位置 z-8・9グリッドで検出された竪穴状遺構である。遺構の西側は調査区外に位置する。SX7・13、P20より古く、SX14より新しい。調査区壁からⅢ層上面の遺構であることが確認された。

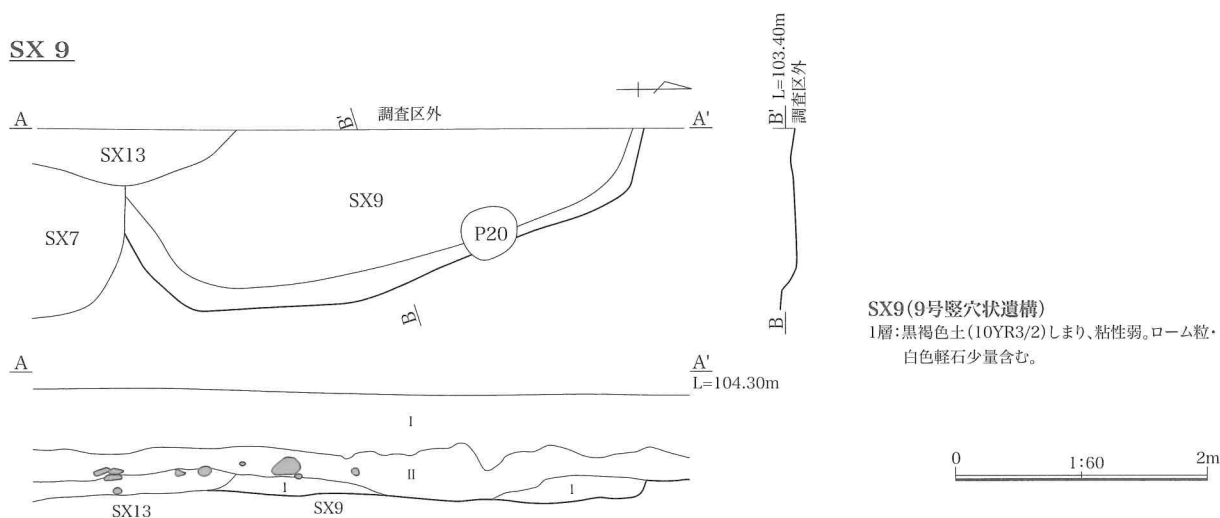
形状・規模 平面形は方形ないしは長方形と考えられる。東西辺1.56m以上、南北辺4.2m、深さ0.24mを測る。

Ⅱ層が遺構内に厚く堆積するため、遺構覆土はきわめて薄い堆積状態を示す。

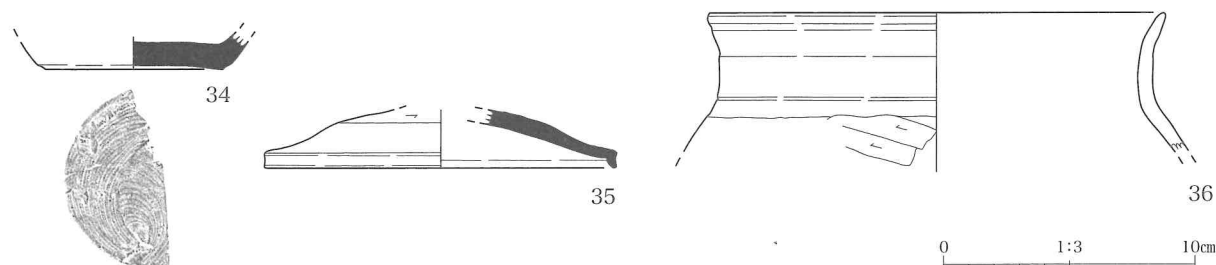
出土遺物 遺構覆土からは、須恵器の坏・蓋・短頸壺蓋・高台付埴・甕、土師器の坏・皿・甕など8〜9世紀に帰属する遺物が出土した。

時期 出土遺物および他遺構との新旧関係から、9世紀以降の遺構と考えられる。

SX 9



SX 9出土遺物



第14図 SX9、SX9 出土遺物

第5表 SX9 出土遺物観察表

図No.	種別 器種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
34	須恵器 坏	SX9 覆土	口径: 一・器高: (1.5)・底径: 7.0・最大径: 一 底部1/2残存/灰色・良好	黒色粒	外面: 底部系切り未調整。 内面: ロクロ調整。
35	須恵器 蓋	SX9 覆土	口径: 14.0・器高: (2.3)・底径: 一・最大径: 一 口縁部1/4残存/灰色・良好	石英、軽石、 砂粒	外面: 天井部ヘラケズリ。 内面: ロクロ調整。
36	土師器 甕	SX9 覆土	口径: 18.0・器高: (6.5)・底径: 一・最大径: 一 口縁部1/8残存/黄橙色・良好	角閃石、雲母、 白色粒	外面: 口縁部ヨコナデ、胴上部斜位ヘラケズリ。 内面: ナデ。弱コの字状口縁。

SX 10 (第 15 図 第 6 表 PL. 3・6)

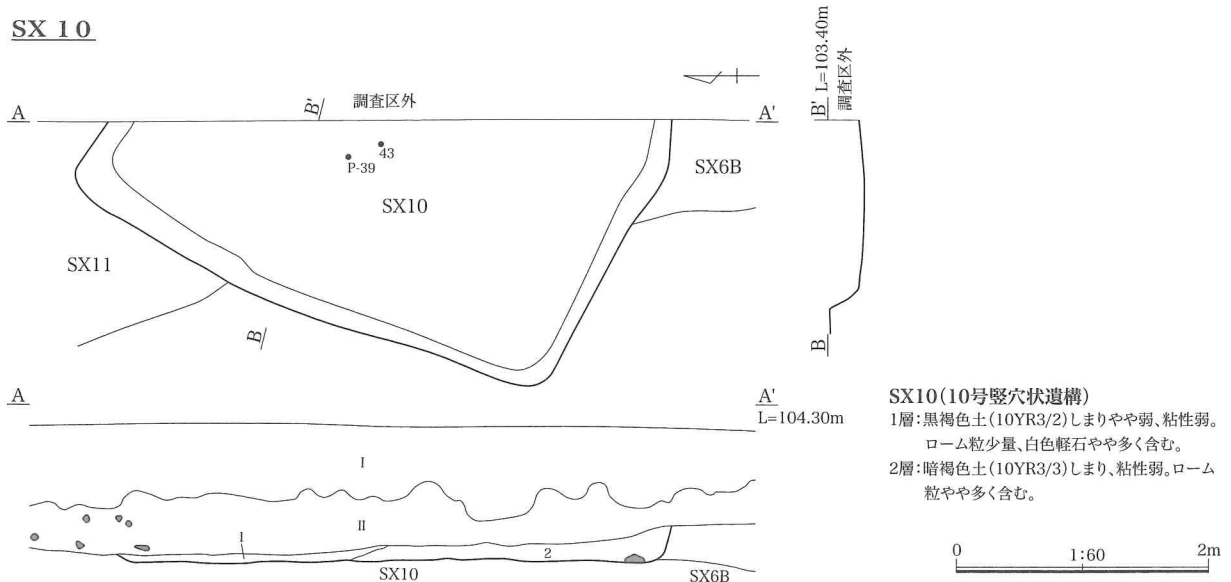
位 置 y・z-9 グリッドで検出された竪穴状遺構である。遺構の東側は調査区外に位置する。SX6B・11・24 よりも新しい。調査区壁からⅢ層上面の遺構であることが確認された。

形状・規模 平面形は方形ないしは長方形と考えられる。東西辺 2.4m 以上、南北辺 4.56m、深さ 0.3m を測る。遺構覆土はきわめて薄い堆積状態を示す。

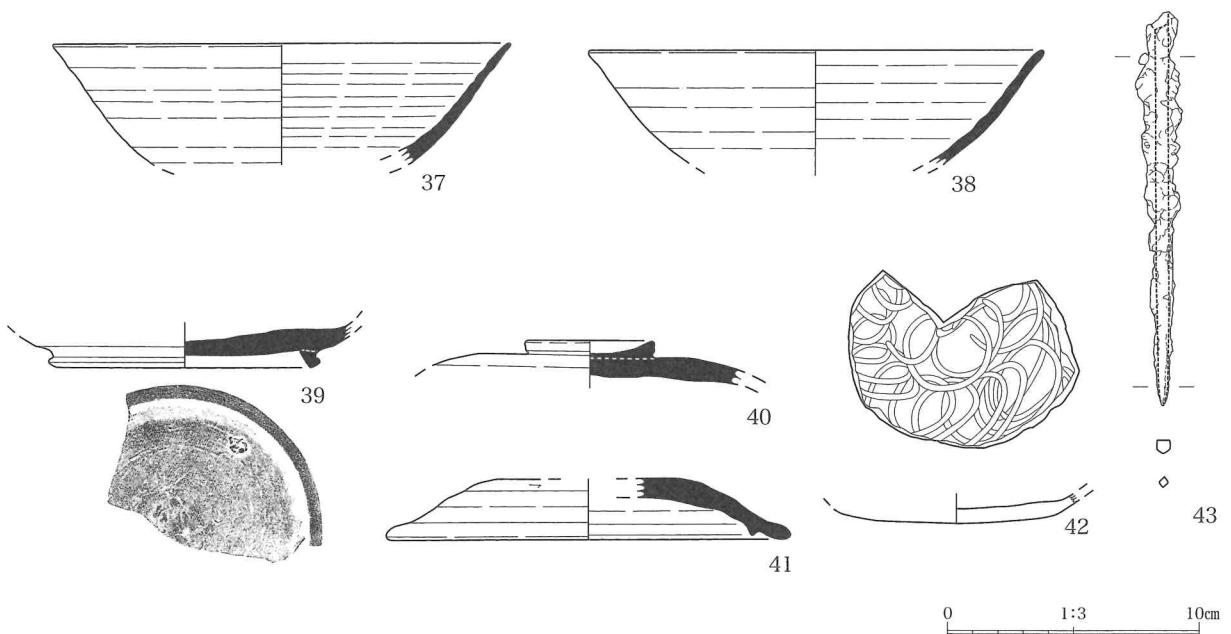
出土遺物 遺構覆土からは、須恵器の坏・蓋・高盤、土師器の坏・盤・甕など多数の遺物が出土した。遺物の大半は 8 世紀代に帰属する遺物であり、9 世紀以降の遺物を一部含む。遺構底面からは鉄釘 (43)、須恵器の高台付皿 (39) が出土している。このほか希少遺物では、底部内面に螺旋状に施文された暗文土師器 (42) が遺構覆土から出土している。

時 期 遺構底面での遺物内容や遺構の新旧関係から 9 世紀以降の遺構と考えられる。

SX 10



SX 10出土遺物



第 15 図 SX10、SX10 出土遺物

第6表 SX10 出土遺物観察表

図No.	種別 器種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
37	須恵器 坏	SX10 覆土	口径: (18.0)・器高: (4.8)・底径: 一・最大径: 一 口縁〜体部1/6残存/灰白色・普通	石英、長石	外面: ロクロ整形 (左回転)。 内面: ロクロ整形。
38	須恵器 坏	SX10 覆土	口径: (18.0)・器高: (4.5)・底径: 一・最大径: 一 口縁〜体部1/6残存/灰色・普通	石英	外面: ロクロ整形。 内面: ロクロ整形。
39	須恵器 高台付皿	SX10 遺構底面	口径: 一・器高: (1.8)・底径: 10.0・最大径: (13.1) 底部1/3残存/灰白色・良好	雲母	外面: ロクロ整形 (右回転)。高台貼付。 内面: ロクロ整形。
40	須恵器 蓋	SX10 覆土	口径: 一・器高: (1.2)・底径: 一・鈕径: 5.1 口縁〜体部1/4残存/灰白色・普通	雲母、長石、 白色粒	外面: ロクロ整形 (右回転)。天井部ヘラケズリ。 内面: ロクロ整形。環状鈕。
41	須恵器 蓋	SX10 覆土	口径: (15.6)・器高: (2.4)・底径: 一・最大径: (16.0) 口縁〜体部1/8残存/灰白色・普通	長石、石英	外面: ロクロ整形。天井部回転ヘラケズリ。 内面: ロクロ整形。
42	土師器 坏	SX10 覆土	口径: 一・器高: 1.2・底径: 一・最大径: 一 底部3/4残存/橙色・普通	雲母	外面: 底部ヘラケズリ。 内面: ナデ後に螺旋暗文。
43	鉄器 釘	SX10 遺構底面	長軸長: (15.6)・厚: (4.0)・重量: 28.38 頭部破損/赤茶褐色・普通	—	ほぼ完形の角釘。

SX 11 (第16図 第7表 PL. 3・6)

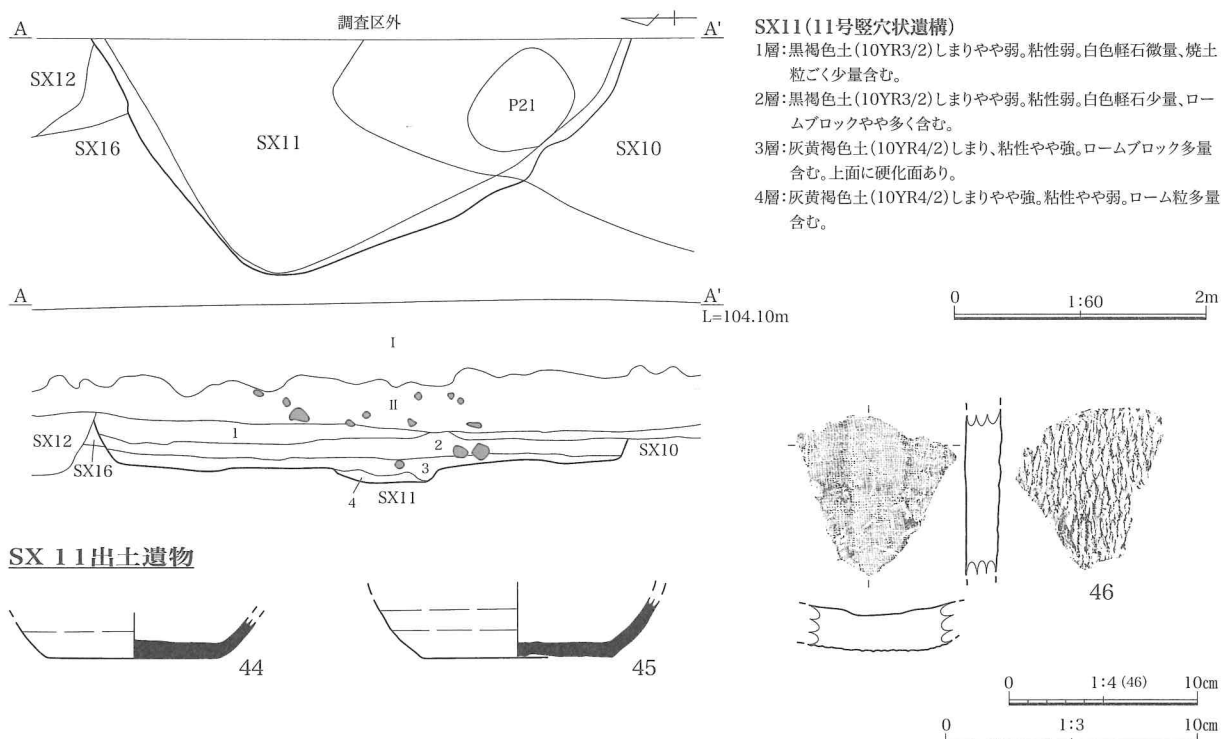
位置 y・z-9グリッドで検出された竪穴状遺構である。遺構の東側は調査区外に位置する。SX16より新しく、SX10より古い。調査区壁からⅢ層上面の遺構であることが確認された。

形状・規模 平面形は方形ないしは長方形と考えられる。東西辺2.1m以上、南北辺3.3m、深さ0.42mを測る。3層上面では、やや硬化した面が認められた。このことから、本遺構が住居跡の可能性も考えられる。

出土遺物 遺構覆土からは、須恵器の坏・蓋、土師器の坏・盤・甕、平瓦などが出土した。出土遺物の大半は、7世紀後半～8世紀半ばに帰属する遺物である。

時期 出土遺物および遺構の新旧関係から、8世紀前半～8世紀半ばに帰属する遺構と考えられる。

SX 11



第16図 SX11、SX11 出土遺物

第7表 SX11 出土遺物観察表

図No.	種別 器種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
44	須恵器 坏	SX11 覆土	口径: 一・器高: (1.4)・底径: 6.8・最大径: 一 体部〜底部破片/黄灰色/普通	長石、雲母、 白色粒	外面: 体部ロクロ整形。底部全面回転ヘラケズリ。 内面: ロクロ整形。
45	須恵器 坏	SX11 覆土	口径: 一・器高: (2.2)・底径: (7.5)・最大径: 一 体部1/10〜底部1/3残存/灰オリブ色・普通	石英、長石、 砂粒	外面: 体部ロクロ整形 (右回転)。底部全面回転ヘラケズリ (右回転)。 内面: ロクロ整形。
46	瓦 平瓦	SX11 覆土	厚さ: 1.9〜2.1 破片/にぶい橙色/やや不良	石英	凸面: 縄タタキ。 凹面: 布目。桶巻作り。

SX 14 (第 17 図 第 8 表 PL. 3・4・6)

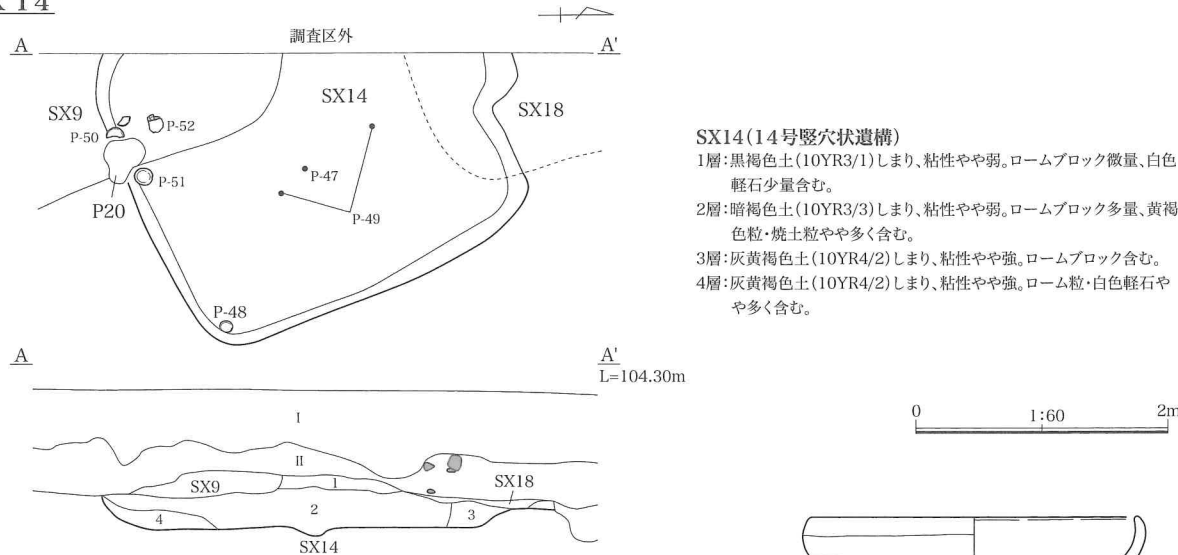
位 置 y・z-8・9 グリッドで検出された竪穴状遺構である。遺構の西側は調査区外に位置する。SX9・18、P20 より古い。調査区壁からⅢ層上面の遺構であることが確認された。

形状・規模 平面形は方形と考えられる。東西辺 2.1m 以上、南北辺 3.3m、深さ 0.42m を測る。

出土遺物 遺構覆土からは、須恵器の坏・高台付碗・短頸壺・甕、土師器の坏・皿・甕が出土した。下底面の南西壁際と南東隅からは、8 世紀前半の良好な遺存状態の遺物が出土している。出土遺物は、8 世紀前半～10 世紀までの遺物を含み、本遺構より新しい SX9 の覆土内遺物の一部が混入した可能性がある。

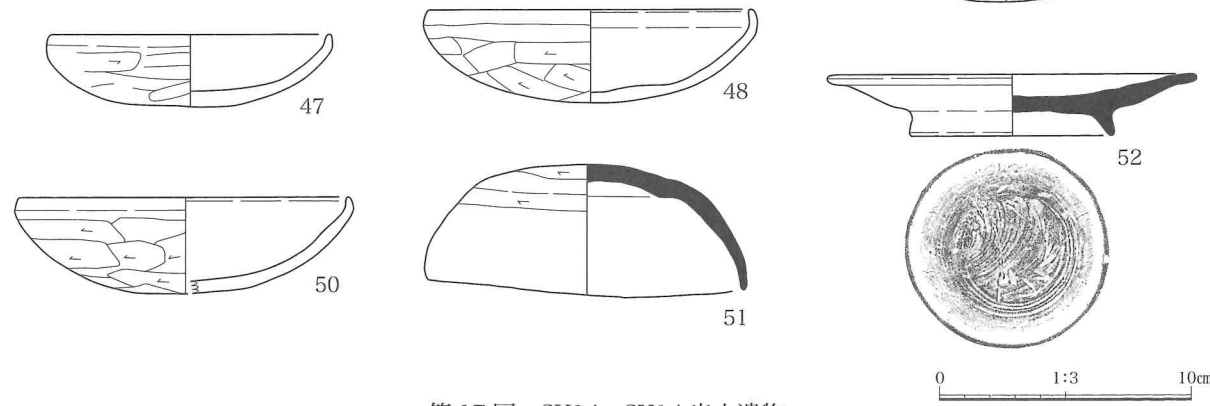
時 期 出土遺物および遺構の新旧関係から、8 世紀前半の遺構と考えられる。

SX 14



SX14(14号竪穴状遺構)
1層:黒褐色土(10YR3/1)しまり、粘性やや弱。ロームブロック微量、白色軽石少量含む。
2層:暗褐色土(10YR3/3)しまり、粘性やや弱。ロームブロック多量、黄褐色粒・焼土粒や多く含む。
3層:灰黄褐色土(10YR4/2)しまり、粘性やや強。ロームブロック含む。
4層:灰黄褐色土(10YR4/2)しまり、粘性やや強。ローム粒・白色軽石や多く含む。

SX 14 出土遺物



第 17 図 SX14、SX14 出土遺物

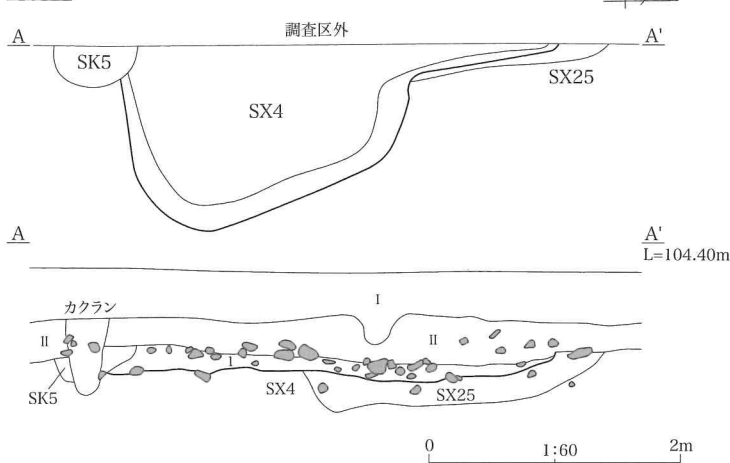
第 8 表 SX14 出土遺物観察表

図No	種別 器種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
47	土師器 坏	SX14 遺構底面	口径: (11.0)・器高:2.9・底径:一・最大径: (11.3) 口縁部~底部1/2残存/橙色・普通	石英、長石	外面:口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。 内面:口縁部~体部ヨコナデ。底部ナデ。
48	土師器 坏	SX14 遺構底面	口径:12.8・器高:3.7・底径:一・最大径:13.2 一部欠損/橙色・普通	石英、雲母、 白色粒	外面:口縁部ヨコナデ。体部上位未調整。中位~底部ヘラケズリ。 内面:ナデ。
49	土師器 坏	SX14 遺構底面	口径:13.0・器高:4.2・底径:一・最大径:一 口縁部~底部1/2残存/橙色・普通	石英、角閃石、 雲母	外面:口縁部ヨコナデ。底部ヘラケズリ。 内面:口縁部~体部ヨコナデ。底部ナデ。
50	土師器 坏	SX14 遺構底面	口径:13.1・器高:3.8・底径:一・最大径: (13.4) 口縁部~底部1/2残存/橙色・普通	雲母	外面:口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。煤付着。 内面:ナデ。
51	須恵器 蓋	SX14 遺構底面	口径:12.5・器高:5.3・底径:一・最大径:一 ほぼ完形/灰白色・普通	小礫	外面:ロクロ整形。体部上半~天井部ヘラケズリ。 内面:ロクロ整形。
52	須恵器 高台付皿	SX14 覆土	口径: (14.6)・器高:2.5・底径:8.0・最大径:一 口縁部1/6残存~高台部完存/灰色・普通	小礫	外面:ロクロ整形 (左回転)。底部回転糸切り。高台貼付。 内面:ロクロ整形。

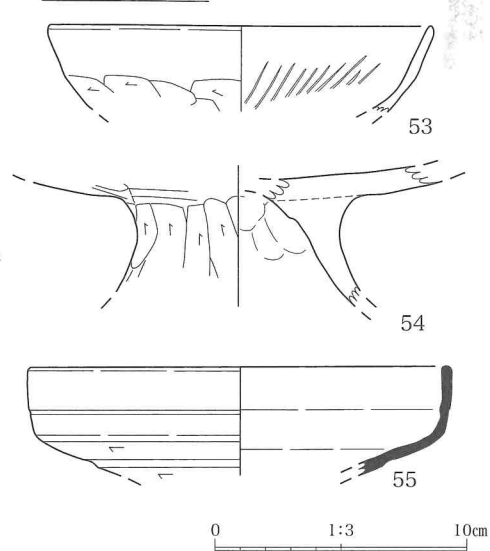
2. その他の遺構

(1) その他の竪穴状遺構 (第18図～22図 第9表～14表 PL. 7)

SX 4



SX 4出土遺物



SX4 (4号竪穴状遺構)

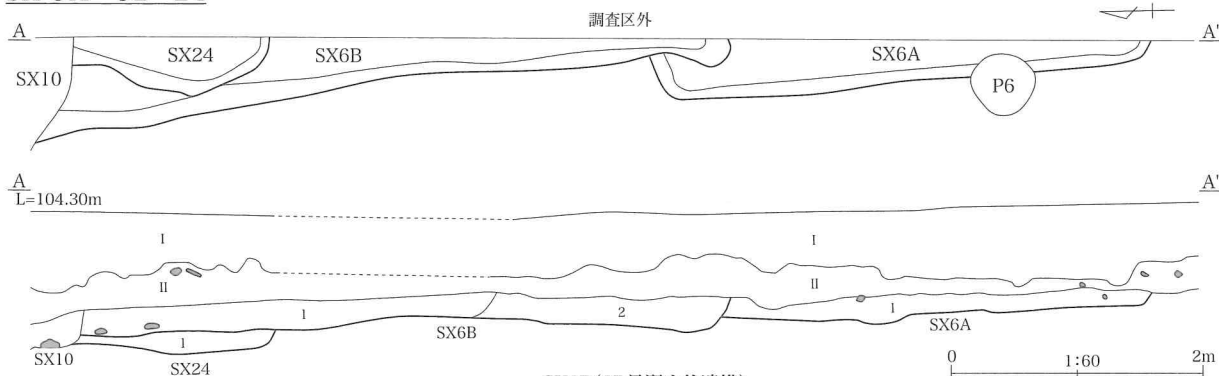
1層:暗褐色土(10YR3/3)しまりやや弱。粘性弱。ローム粒・白色軽石少量、礫多量含む。

第18図 SX4、SX4 出土遺物

第9表 SX4 出土遺物観察表

図No.	種別 器種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
53	土師器 杯	SX4 覆土	口径: (15.0)・器高:3.4・底径:一・最大径:一 口縁～体部1/5残存/灰黄色・普通	石英、角閃石、 雲母	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。暗文。 内面:口縁部ヨコナデ。体部粗いヘラミガキ。
54	土師器 高盤	SX4 覆土	口径:一・器高: (5.6)・底径:一・最大径:一 盤部下位～脚部1/8残存/黄褐色・普通	雲母、結晶 片岩	外面:ヘラケズリ。 内面:盤部ナデ。脚部ナデ、指頭痕。
55	須恵器 高杯	SX4 覆土	口径: (16.5)・器高: (4.3)・底径:一・最大径:一 杯部1/5残存/灰白色・普通	黒色粒、小礫	外面:ロクロ整形。杯部下半ヘラケズリ。口縁部沈線一条。 内面:ロクロ整形。

SX 6A・6B・24



SX6B (6B号竪穴状遺構)

1層:暗褐色土(10YR3/3)しまり、粘性やや弱。ローム粒やや多く含む。

2層:黒褐色土(10YR3/2)しまりやや弱、粘性弱。ローム粒少量、白色軽石やや多く含む。

SX6A (6A号竪穴状遺構)

1層:暗褐色土(10YR3/3)しまり、粘性やや弱。ロームブロック多量含む。

SX24 (24号竪穴状遺構)

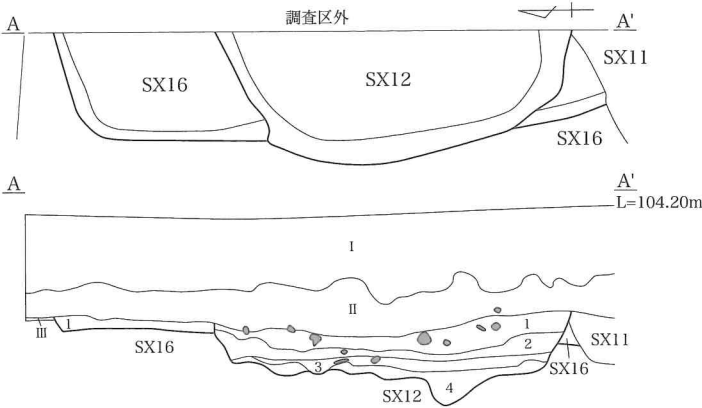
1層:黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性やや弱。ロームブロック多量、白色軽石やや多く含む。

第19図 SX6A・6B・24

第10表 SX4・6A・6B・24・25遺構観察表

遺構名	位置	遺構規模 (m)			平面形状	出土遺物・遺物時期	遺構時期	新旧関係・備考
		長軸長	短軸長	深さ				
SX4	A・B- 8・9	(3.48)	(1.50)	0.18	長方形	掲載遺物の他、須恵器の杯・甕・蓋、土師器の杯・甕が出土。7c後半～8c前葉、9～10c。	9c～10c	III層上面の遺構。SK5より古く、SI3、SX5・7・22・25より新しい。
SX6A	A・B- 10	3.96	(0.48)	0.15	方形ないし長方形	SX6出土遺物として、須恵器の杯・高台碗・短頸壺、土師器の杯などが出土。7～9c。	8c～9c か。	III層上面の遺構。SX6B、P6より古い。当初、SX6Bと同一としたが、土層観察の結果、別遺構とした。
SX6B	z・A- 10	(5.52)	(0.54)	0.23	不明	SX6出土遺物として、須恵器の杯・高台付碗・短頸壺、土師器の杯などが出土。7～9c。	8c～9c か。	III層上面の遺構。SX6A・24より新しく、SX10より古い。SX6Aとは土層観察の結果、別遺構とした。
SX24	z・A-10	(1.5)	(0.42)	0.18	不明	出土遺物なし。	7～8c	SX6B・10より古い。
SX25	A・B-8	(2.34)	(2.25)	0.48	不明	出土遺物なし。	9c以降	III層上面の遺構。SX4より古く、SX7より新しい。

SX 12・16



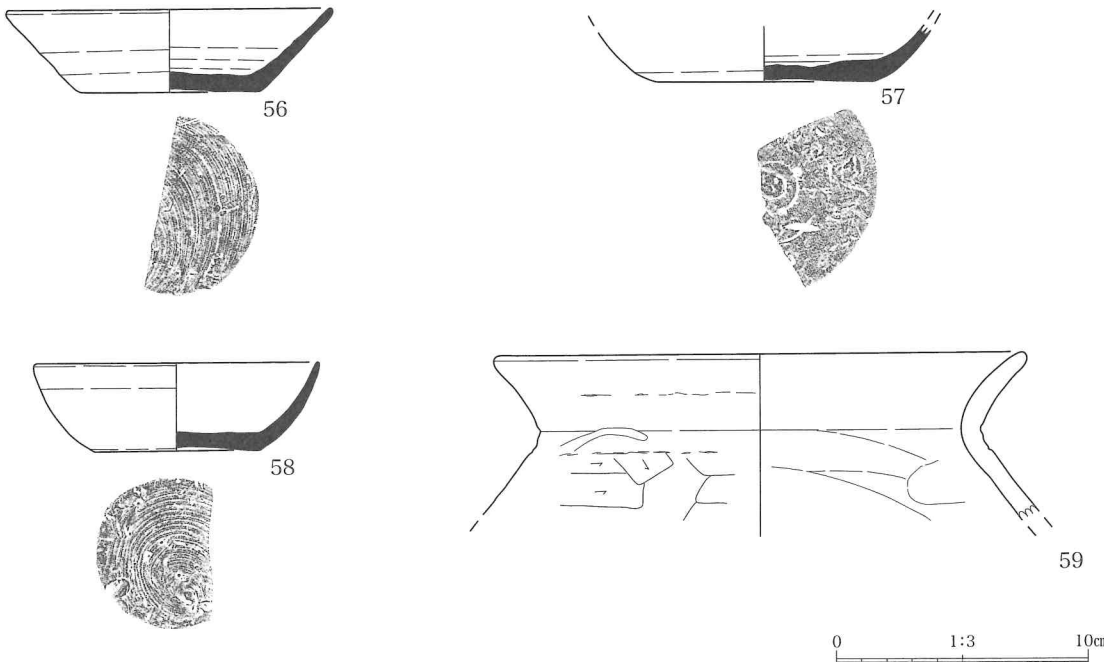
SX12(12号竪穴状遺構)

- 1層:黒褐色土(10YR2/2)しまりやや強。粘性弱。礫多量、ロームブロック少量含む。
2層:黒褐色土(10YR2/2)しまりやや弱。粘性やや強。ロームブロック・礫やや多量、焼土粒少量含む。
3層:灰黄褐色土(10YR4/2)しまりやや強。粘性やや強。ロームブロック多量含む。
4層:灰黄褐色土(10YR4/2)しまり、粘性やや強。ロームブロックやや多く含む。

SX16(16号竪穴状遺構)

- 1層:黒褐色土(10YR3/1)しまり、粘性やや弱。礫・白色軽石少量含む。

SX 12出土遺物



第 20 図 SX12・16、SX12 出土遺物

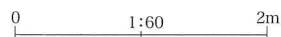
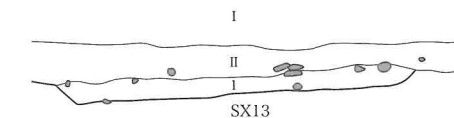
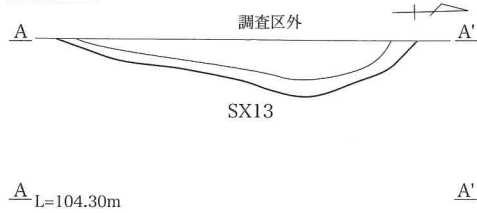
第11表 SX12・16遺構観察表

遺構名	位 置	遺構規模 (m)			平面形状	出土遺物・遺物時期	遺構時期	新旧関係・備考
		長軸長	短軸長	深さ				
SX12	x・y-10	(2.52)	(1.5)	0.48	方形ないし長方形	掲載遺物の他、須恵器の坏・高台付埴・蓋・甕・甕・横瓶、土師器の坏・甕、軒丸瓦・平瓦が出土。8c～9c前半。	8c後半～9c前半。	SX11・16より新しい。3層上面には、やや硬化した面が確認された。遺物が多数出土したが、これらの中にはSX16の出土遺物を多少含むとみられる。
SX16	x・y-10	(4.02)	(0.96)	0.10	方形ないし長方形	出土遺物なし。	7～8c	III層上面の遺構。SX11・12より古い。

第12表 SX12 出土遺物観察表

図No.	種 別 器 種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎 土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
56	須恵器 坏	SX12 遺構底面	口径: (12.8)・器高: 3.3・底径: (7.0)・最大径: 一 口縁～底部1/4残存/灰色・良好	白色粒	外面: ロクロ整形 (左回転)。底部回転糸切り。 内面: ロクロ整形。
57	須恵器 坏	SX12 覆土	口径: 一・器高: (2.2)・底径: (8.8)・最大径: 一 体部下位～底部1/3残存/灰色・良好	白色粒	外面: ロクロ整形 (左回転)。底部回転ヘラケズリ。 内面: ロクロ整形。
58	須恵器 坏	SX12 覆土	口径: (11.2)・器高: 3.5・底径: (6.5)・最大径: 一 口縁～底部1/3残存/外面: 灰色、内面: 暗灰色・良好	長石、雲母、 白色粒	外面: ロクロ整形 (右回転)。底部回転糸切り。 内面: ロクロ整形。
59	土師器 甕	SX12 覆土	口径: (20.8)・器高: (6.3)・底径: 一・最大径: 一 口縁～体部1/5残存/にぶい橙色・普通	石英、長石、 角閃石	外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内面: 口縁部～胴部ヨコナデ。

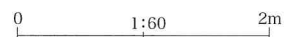
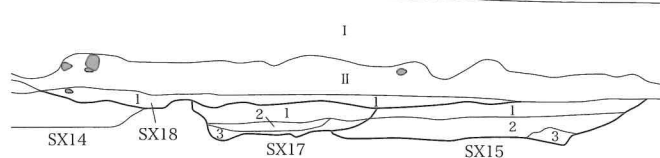
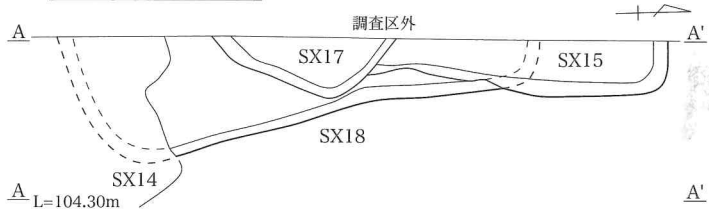
SX 13



SX13(13号竪穴状遺構)

1層:黒褐色土(10YR2/2)しまりやや強。粘性弱。礫多量、ロームブロック少量含む。

SX 15・17・18



SX15(15号竪穴状遺構)

1層:黒褐色土(10YR3/1)しまり、粘性弱。ローム粒少量、白色軽石やや多く含む。
2層:灰黄褐色土(10YR4/2)しまりやや強。粘性弱。ロームブロック・白色軽石多量含む。
3層:灰黄褐色土(10YR4/2)しまり、粘性やや強。ロームブロック多量含む。

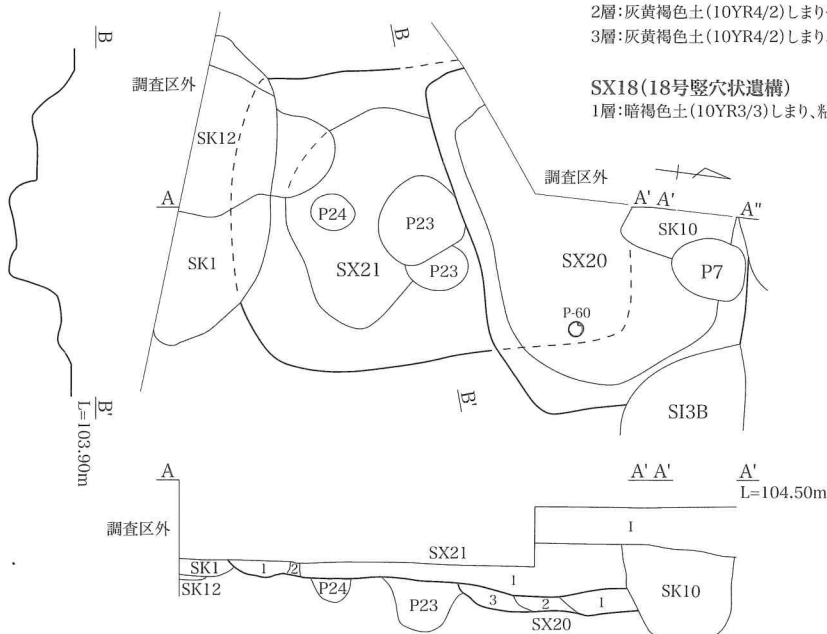
SX17(17号竪穴状遺構)

1層:黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強。粘性やや弱。黄褐色粒少量、白色軽石やや多く含む。
2層:灰黄褐色土(10YR4/2)しまりやや強。粘性弱。ロームブロック・白色軽石多量含む。
3層:灰黄褐色土(10YR4/2)しまり、粘性やや強。ロームブロック多量含む。

SX18(18号竪穴状遺構)

1層:暗褐色土(10YR3/3)しまり、粘性弱。白色軽石やや多く含む。

SX 20・21

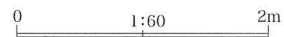


SX20(20号竪穴状遺構)

1層:黒褐色土(10YR3/1)しまり、粘性弱。黄褐色粒少量、白色軽石やや多く含む。
2層:黒褐色土(10YR3/1)しまり、粘性弱。黄褐色粒・焼土粒やや多く含む。
3層:黒褐色土(10YR3/1)しまり、粘性弱。黄褐色粒・焼土粒やや多く含む。

SX21(21号竪穴状遺構)

1層:黒褐色土(10YR3/1)しまり、粘性弱。ローム粒・白色軽石少量含む。
2層:黒褐色土(10YR3/1)しまりなし。粘性やや強。ロームブロック・焼土粒やや多く含む。

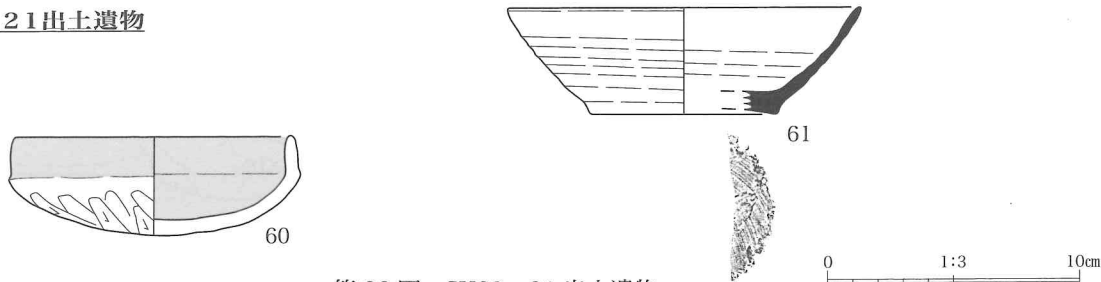


第 21 図 SX13・15・17・18・20・21

第13表 SX13・15・17・18・19・20・21遺構観察表

遺構名	位 置	遺構規模 (m)			平面形状	出土遺物・遺物時期	遺構時期	新旧関係・備考
		長軸長	短軸長	深さ				
SX13	z・A-9	(2.58)	(0.42)	0.18	不明	出土遺物なし。	9c以降か。	Ⅲ層上面の遺構。SX9・17より新しい。
SX15	y-9	(2.34)	(0.48)	0.30	方形ないし長方形	掲載遺物の他、須恵器の坏(回転系切りなど)・高台付埴(内面黒色)などが出土。7c後半～10c。	7c後半～9cか。	Ⅲ層上面の遺構。SX17・18より古い。
SX17	y-9	(1.02)	(0.72)	0.27	方形ないし長方形か。	出土遺物なし。	不明	SX18より古く、SX15より新しい。
SX18	y-9	(2.46)	(0.96)	0.18	不整形	出土遺物なし。	8c以降	Ⅲ層上面の遺構。SX14・15・17より新しい。
SX19	x-9	(1.02)	(0.39)	0.12	方形ないし長方形	土師器の坏・甕が出土。6c後半～8c。	7c後半～8cか。	Ⅲ層上面の遺構。SB1より古い。
SX20	C-8・9	(2.85)	(2.10)	0.21	長方形	掲載遺物の他、須恵器の坏・甕、土師器の甕が出土。7c後半～9c。	7c後半～8c中か。	SI3、SX21、SK8・10、P7より古く、P22より新しい。
SX21	C-8・9	(3.15)	(2.25)	0.41	長方形	掲載遺物の他、須恵器の坏(回転系切り)・甕、土師器の坏が出土。7c後半～9c。	9c以降	SK1より古く、SX20、SK12、P22・23・24より新しい。

SX 20・21出土遺物

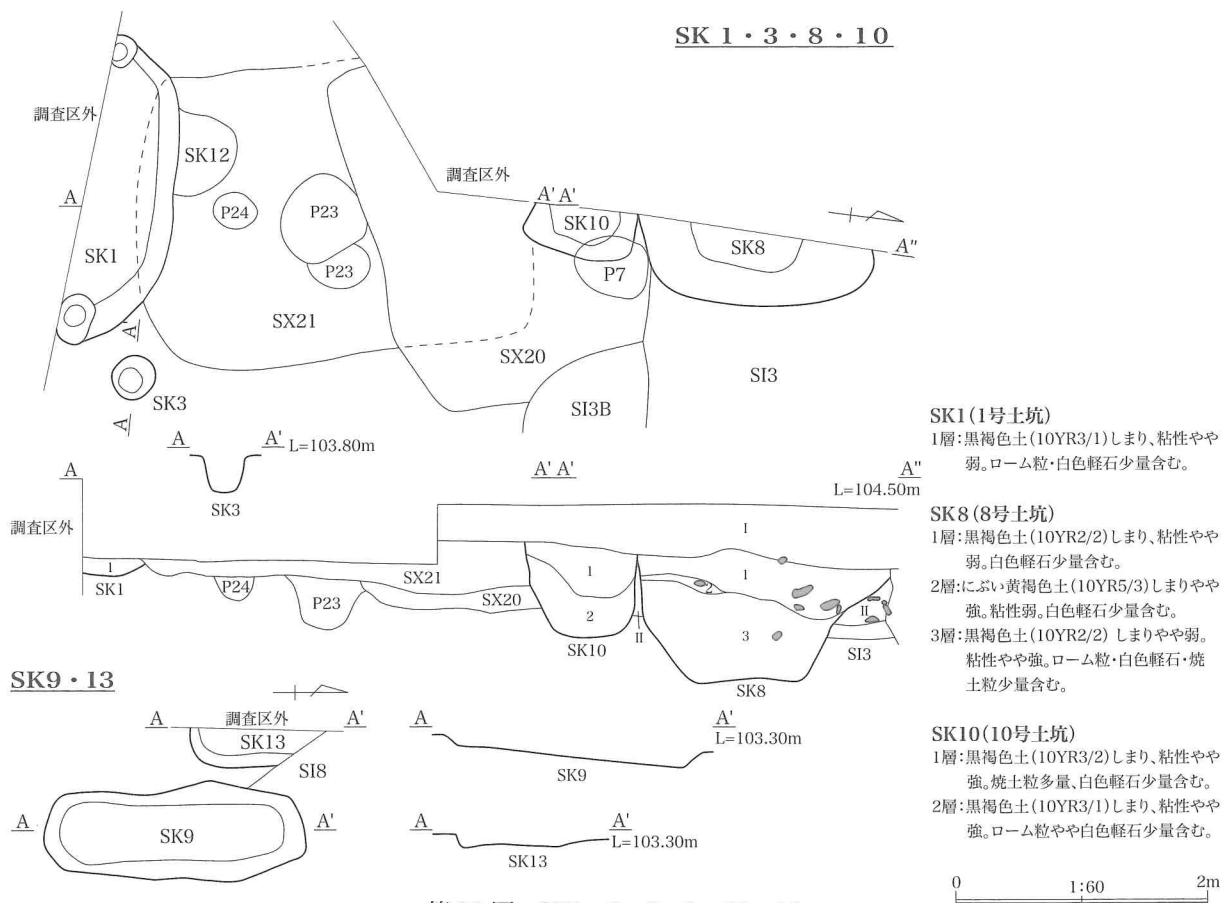


第22図 SX20・21 出土遺物

第14表 SX20・21 出土遺物観察表

図No	種別 器種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成		
60	土師器 杯	SX20 覆土	口径:10.9・器高:4.0・底径:—・最大径:11.5	石英、砂粒、 酸化鉄	外面:口縁部ヨコナデ。体部へラケズリ。 内面:口縁部〜体部ヨコナデ。底部へラナデ。
			ほぼ完形/黄褐色・普通		
61	須恵器 杯	SX20・21 +SK12	口径: (6.8)・器高:4.2・底径: (7.4)・最大径:—	黒色粒	外面:ロクロ整形 (右回転)。底部回転糸切り。 内面:ロクロ整形。
			口縁部〜底部1/4残存/灰白色・不良		

(2) 土坑・焼土範囲 (第23～25図 第15～18表 PL. 7)

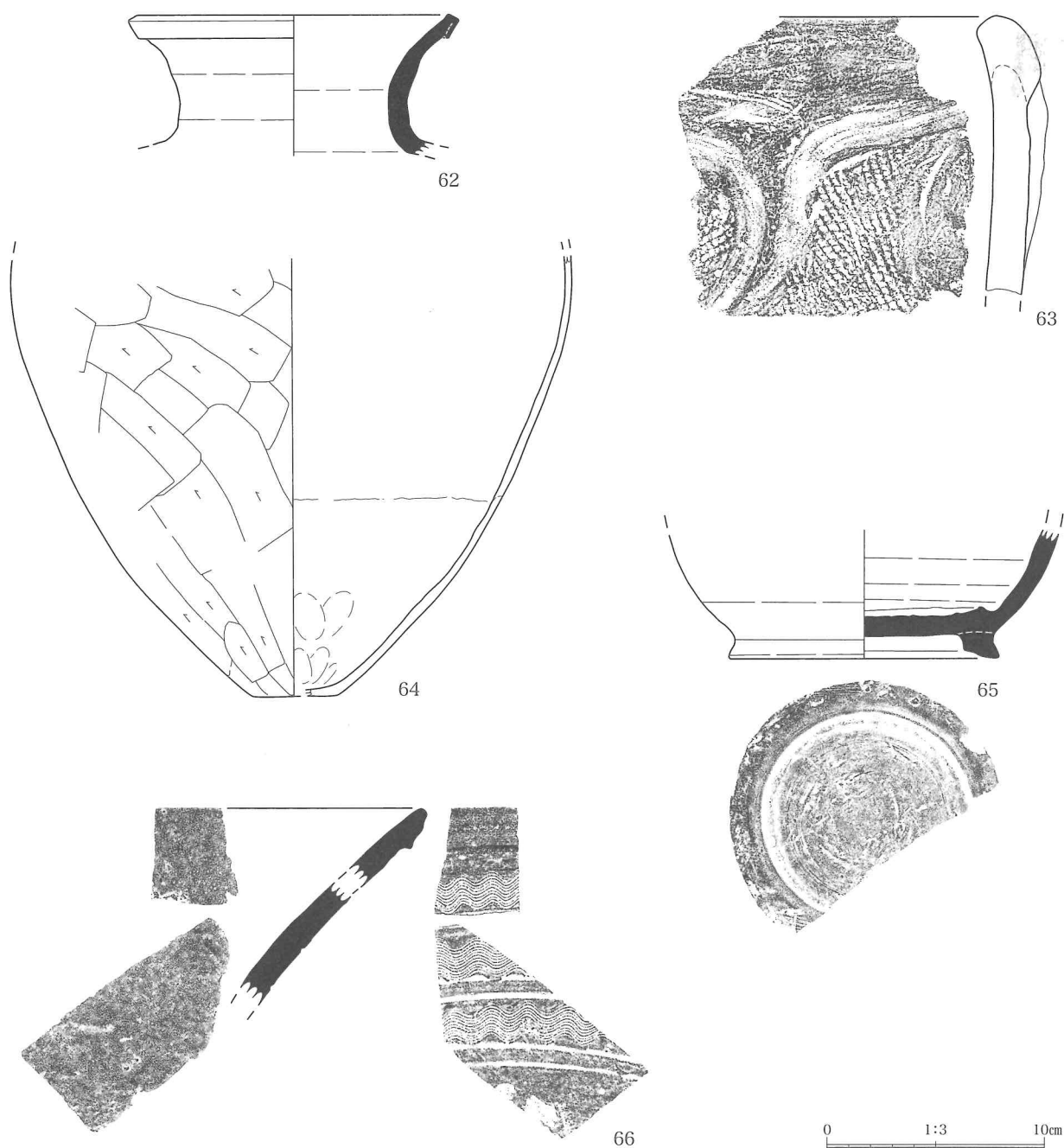


第23図 SK1・3・8・9・10・13

第15表 SK1・3・8・9・10・13遺構観察表

遺構No	位置	遺構規模 (m)			平面形	断面形	出土遺物・遺物時期	遺構時期	新旧関係・備考
		長軸長	短軸長	深さ					
SK1	C・D-8・9	(2.34)	(0.72)	0.18	方形ないし楕円形	半円形	掲載遺物の他、須恵器の杯、蓋、土師器の杯が出土。8c。	9c以降	II層上面の遺構。SX21、SK12より新しい。
SK3	C-9	0.36	0.36	0.30	円形	半円形	縄文土器 (中期)	不明	古墳〜平安時代の遺構の可能性が高い。
SK8	B・C-8	1.80	(0.66)	1.02	楕円形か。	U字形	掲載遺物の他、須恵器の甕 (内面青海波紋など)、土師器の甕が出土。7c後半〜8c前・9c。	9〜10c	II層上面の遺構。SI3より新しい。
SK9	A-8・9	0.21	0.78	0.18	長楕円形	半円形	須恵器の杯が出土。9c。	9c	SX7の下面を確認面とし、SX7よりも古い遺構と考えられる。SI8より新しい。
SK10	C-8	0.90	(0.42)	0.72	楕円形か。	U字形	須恵器の杯・短頸壺が出土。9〜10c。	9〜10c	II層上面の遺構。P7より古い。
SK13	B-8	0.90	(0.63)	0.18	不整形	不明	出土遺物なし。	7〜8cか。	SI8、SX7より古い。

SK 1・3・8出土遺物

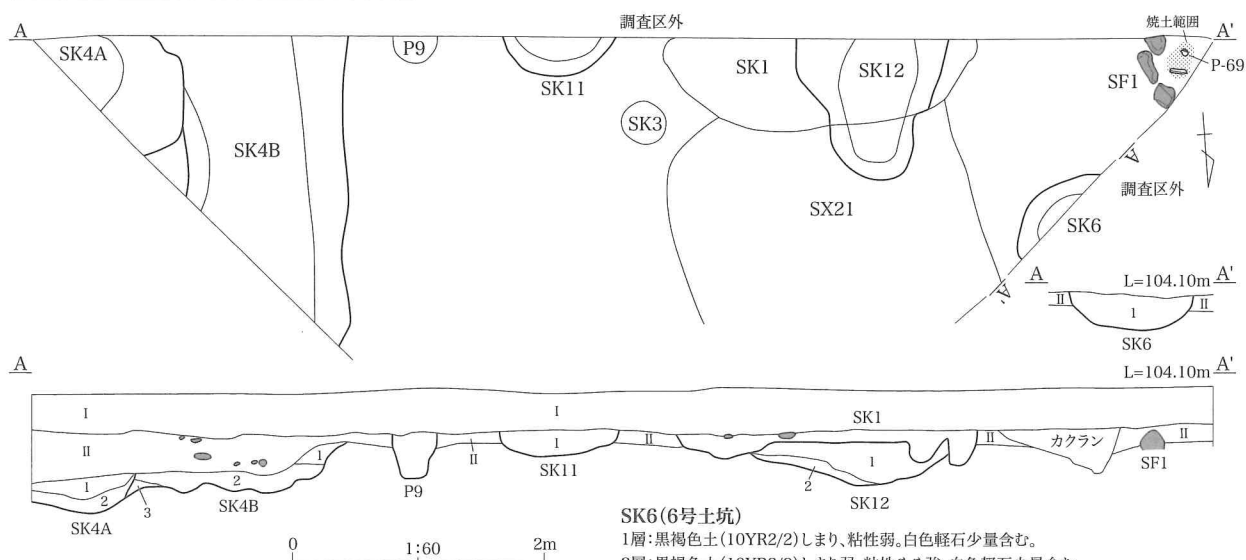


第 24 図 SK1・3・8 出土遺物

第16表 SK1・3・8 出土遺物観察表

図No	種 別 器 種	出土位置	計測値 (cm/g)	胎 土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率／色調・焼成		
62	須恵器 壺	SK1 遺構底面	口径:14.2・器高:6.4・底径:一・最大径:一 口縁部～頸部1/6残存／灰白色・良好	石英、長石	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。
63	縄文土器 深鉢	SK3 覆土	口径:一・器高:一・底径:一・最大径:一 口縁部1/8残存／にぶい赤褐色・普通	石英、シャモット	外面：口縁部隆帯。
64	土師器 甕	SK8 覆土	口径:一・器高:20.1・底径: (4.0) ・最大径:一 胴部～底部1/4残存／明赤褐色・普通	石英、長石、 雲母	外面：胴部～底部ヘラケズリ。 内面：胴部～底部ナデ。胴部下に指圧痕。
65	須恵器 長頸壺	SK8 覆土	口径:一・器高: (5.9) ・底径:12.3・最大径:一 体部下端1/4～底部2/3残存／灰色・良	黒色粒、白色 粒	外面：ロクロ整形。高台貼付。 内面：ロクロ整形。
66	須恵器 甕	SX21 + SK8	口径:一・器高:一・底径:一・最大径:一 口縁部～頸部1/2残存／灰色・普通	石英、黒色粒	外面：沈線区画波状文。灰釉。 内面：ロクロ整形。灰釉。

SK 4A・4B・6・11・12・SF 1



SK4A(4A号土坑)

1層：黒褐色土(10YR3/1)しまり、粘性弱。ロームブロックごく少量、白色軽石含む。
2層：暗褐色土(10YR3/3)しまり、粘性弱。ロームブロック多量含む。

SK4B(4B号土坑)

1層：黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性弱。白色軽石少量含む。
2層：黒褐色土(10YR2/2)しまりなし。粘性やや強。白色軽石少量含む。
3層：灰黄褐色土(10YR4/2)しまり、粘性やや強。ローム粒・白色軽石・焼土粒少量含む。

SK6(6号土坑)

1層：黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性弱。白色軽石少量含む。
2層：黒褐色土(10YR2/2)しまり弱。粘性やや強。白色軽石少量含む。
3層：黒褐色土(10YR2/2)しまり弱。粘性やや強。ローム粒・白色軽石・焼土粒少量含む。

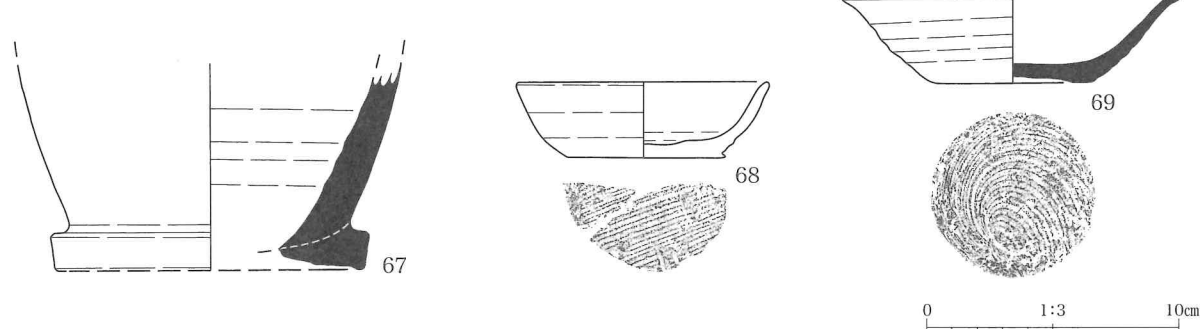
SK11(11号土坑)

1層：黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性やや弱。白色軽石・ローム粒含む。

SK12(12号土坑)

1層：黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性弱。白色軽石少量含む。
2層：灰黄褐色土(10YR4/2)しまり、粘性やや強。白色軽石少量含む。

SK 4・SF 1出土遺物



第25図 SK4A・4B・6・11・12・SF1、SK4・SF1出土遺物

第17表 遺構観察表 (SK・SF)

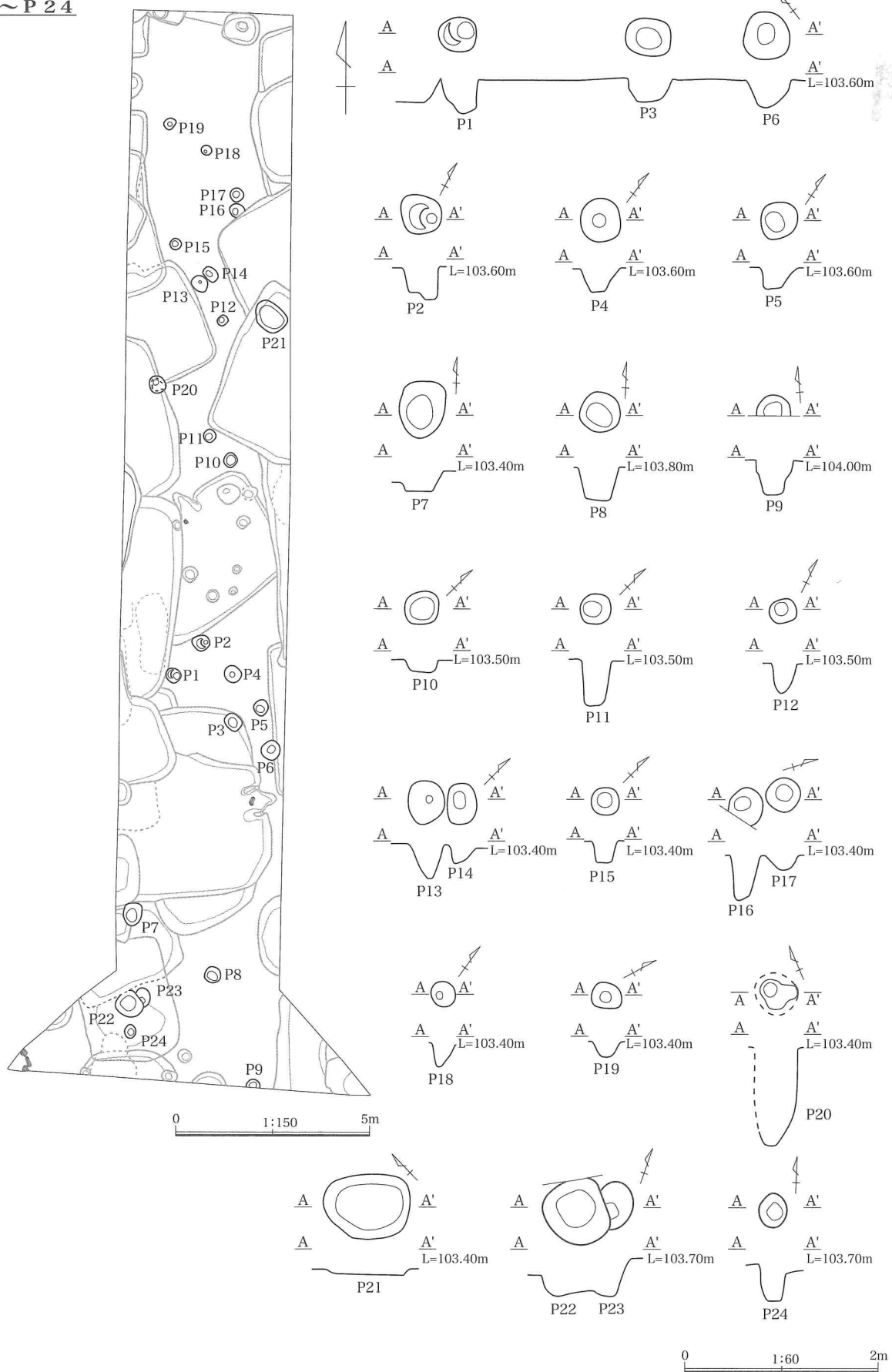
遺構No	位置	遺構規模 (m)			平面形	断面形	出土遺物・遺物時期	遺構時期	新旧関係・備考
		長軸長	短軸長	深さ					
SK2	C-9	2.04	(0.6)	0.18	楕円形か。	半円形	出土遺物なし。	不明	II層上面の遺構である。
SK4A	C・D-9	(1.32)	(0.96)	0.30	不整形	半円形	須恵器の坏(回転糸切り)・高台付碗・蓋・短頸壺、土師器の坏・皿が出土。8c中～9c。	8c中～9c	III層上面の遺構。SK4Bより新しい。
SK4B	C・D-9	(2.76)	(1.26)	0.36	不整形	半円形	土師器の坏が出土。7～8c前半。	8c中～9c	III層上面の遺構。SK4Aより古い。
SK5	B-8	0.68	(0.36)	0.24	楕円形か。	半円形	須恵器の坏、土師器の坏が出土。8c半ば。	9c以降	II層上面の遺構。SI3、SX4より新しい。
SK6	C-8	(0.9)	(0.24)	0.26	楕円形か。	半円形	出土遺物なし。	不明	II層上面の遺構である。
SK7	x-8	0.66	(0.3)	0.21	楕円形か。	半円形	出土遺物なし。	不明	
SK11	C・D-9	(0.84)	(0.3)	0.18	楕円形か。	半円形	出土遺物なし。	不明	II層上面の遺構である。
SK12	C-8	(1.14)	1.08	0.36	不整形	半円形	須恵器の坏・甕・高台付碗、土師器の坏が出土。8～9c。	8～9c	SX21、SK1より古い。礫が多数出土。二基のビットが重複した遺構か。
SF1	C-8	(0.27)	(0.21)	—	不明	—	掲載遺物の他、須恵器の甕、土師器の坏(暗文施文)が出土。8～10c。	9c末～10c	炉の可能性あり。

第18表 SK4・SF1出土遺物観察表

第10表 SK1 出土品目録表						
図No.	種別 器種	出土位置	計測値 (cm/g)		胎土	特徴・調整・文様など
			残存部位・遺存率/色調・焼成			
67	須恵器 插鉢	SK4+ 包含層	口径:一・器高:(8.2)・底径:(12.0)一・最大径:一 体部下位～底部1/5残存/灰色・普通		白色粒、黒色粒	外面:ロクロ整形。底部剥落。 内面:ロクロ整形。
68	土師質土器 坏	SK4A 覆土	口径:10.0・器高:3.0・底径:6.0・最大径:10.0 口縁部～底部1/2残存/浅黄褐色・やや不良		石英、角閃石	外面:ロクロ整形。底部静止糸切り。酸化焙焼成。 内面:ロクロ整形。
69	須恵器 坏	SF1 覆土	口径:13.4・器高:3.7・底径:6.0・最大径:一 口縁部～底部3/4残存/灰色・普通		石英、小礫	外面:ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り。 内面:ロクロ整形。

(3) ピット (第26図、第19表)

P 1 ~ P 24



第26図 ピット

第19表 遺構観察表 (Pit)

遺構名	位 置	遺構規模 (m)			平面形	断面形	出土遺物・遺物時期	遺構時期	新旧関係・備考
		長軸長	短軸長	深さ					
P1	A-9	0.39	0.36	0.36	円形	U字形	出土遺物なし。	9c以降	SX7より新しい。
P2	A-9	0.42	0.42	0.33	円形	U字形	出土遺物なし。	8c以降	SI8より新しい。
P3	B-9	0.45	0.39	0.26	楕円形	U字形	出土遺物なし。	8c以降	SI3より新しい。
P4	A-9	0.44	0.42	0.24	円形	U字形	出土遺物なし。	不明	
P5	B-9	0.39	0.37	0.24	円形	U字形	出土遺物なし。	不明	
P6	B-9	0.48	0.44	0.29	楕円形	U字形	土師器の坏が出土。9c。	9c以降	SX6Aより新しい。
P7	C-8	0.54	0.48	0.19	円形	U字形	出土遺物なし。	不明	SX20、SK10より新しい。
P8	C-9	0.42	0.39	0.33	円形	半円形	出土遺物なし。	不明	
P9	D-9	0.32	(0.24)	0.36	楕円形	U字形	出土遺物なし。	不明	
P10	z-9	0.36	0.34	0.12	円形	U字形	土師器の甕が出土。	不明	
P11	z-9	0.32	0.30	0.78	円形	U字形	出土遺物なし。	不明	
P12	z-9	0.30	0.24	0.33	円形	U字形	出土遺物なし。	不明	
P13	y-9	0.48	0.36	0.36	楕円形	U字形	出土遺物なし。	不明	
P14	y-9	0.42	0.30	0.18	楕円形	半円形	出土遺物なし。	不明	
P15	y-9	0.27	0.27	0.24	円形	U字形	出土遺物なし。	不明	
P16	y-9	0.39	0.36	0.48	円形	U字形	出土遺物なし。	8c以降	SX11より新しい。
P17	y-9	0.36	0.36	0.15	円形	半円形	出土遺物なし。	不明	
P18	y-9	0.27	0.24	0.24	円形	U字形	須恵器の短頸壺が出土。8c。	8c以降	
P19	y-9	0.30	0.26	0.18	円形	半円形	出土遺物なし。	不明	
P20	z-9・10	0.42	0.41	0.92	円形	U字形	出土遺物なし。	9c以降	SX9・14より新しい。
P22	C-8	0.72	0.66	0.36	楕円形	半円形	須恵器の坏・甕、土師器の坏・甕が出土。7c後半～8c中。	7c～8c か。	SX20・21より古く、P23より新しい。
P23	C-8	0.51	0.36	0.24	楕円形	半円形	出土遺物なし。	7c～8c か。	SX21、P22より古い。
P24	C-8	0.36	0.30	0.15	楕円形	半円形	出土遺物なし。	不明	SX21より古い。

3. 出土遺物 (第20表)

発掘調査の結果、本遺跡の遺構・遺物包含層からは、縄文時代中期、古墳時代終末期～奈良・平安時代までの遺物が出土した。出土遺物の内訳は、須恵器 695 点、土師器 1454 点、土師質土器（土師質須恵器）2 点、瓦 10 点、土製品（土錘）2 点、粘土塊 1 点、石製品（紡錘車形石製品）1 点、鉄器（角釘）1 点、縄文土器 18 点、石器（剥片）1 点となる。

本報告では、紙幅の都合もあり、出土遺物の中でも良好な遺存状態の遺物や、遺構の帰属時期を示す遺物を優先して掲載した。こうした掲載資料の不足を多少なりとも補うため、出土遺物組成表（第20表）を示した。

以下、本遺跡から出土した遺物を時代別に概観する。

縄文時代中期の遺物は、加曽利 E3～E4 式の深鉢破片が出土している。このほか、当該期の資料と推察されるものに、黒曜石製の剥片があげられる。本遺跡では、縄文時代の包含層や遺構の遺存が認められないため、原位置を留める遺物は皆無である。

古墳時代終末期～奈良・平安時代の遺物は、時期判別の可能な資料をみる限り、7～10世紀代までの遺物が出土している。この中で、7世紀末～8世紀前半の遺物が多くを占める。SI3やSI8、SX14の遺構底面での出土資料のように、良好な遺存状態を示す遺物が含まれる。8世紀半ば～後半に相当する遺物は、少数の出土しかなく、遺構に伴う資料もSX11やSX12出土遺物などに限られる。9～10世紀に相当する遺物は、一定量が出土しており、墨書土器、瓦、角釘などがみられる。遺構に伴うものでは、SX7やSX9、SX10などで比較的まとまった出土状態での遺物がみられる。遺存状態の良好な資料は、SF1から底部回転糸切りの須恵器坏が出土している。11世紀以降の遺物は、遺物観察を行なった限り確認できなかった。

第20表 出土遺物組成表

須恵器											小計	土師器								小計	瓦	他	合計	備 考
	坏	高台付埴	盤	高坏	蓋	短頸壺	壺	甕	その他	不明		坏	高坏	皿	盤	甕	その他	不明						
SI3 SI3B	17	4		1	1	2	2	31	1	12	71	39	2	1		12	2	119	175		6	252	須恵：高台付皿、土師：台付甕 土：土鍾、縄文：深鉢	
SI8	10		2		3			3	1	23	42	21	1		2	5	1	56	86		1	129	須恵：長頸壺、土師：鉢?、土：土鍾	
SX4	9				4			17	1	10	41	13				16	1	27	57		1	99	須恵：高坏、土師：高盤、縄文：深鉢	
SX5	1							1		1	3	3	1			1		12	17		1	21	石：紡錘車形石製品	
SX6	2					1		1		4	8	2						17	19			27		
SX7	19	1			4			16	2	34	76	25				19		99	143	1	2	222	須恵：埴・皿、縄文：深鉢	
SX9	22	4			8	1		15		22	72	3		1		68		62	134	1		207		
SX10	21			2	6			10	1	16	56	20			2	21		106	149		3	208	須恵：有台皿、土：粘土塊、鉄器：角釘、縄文：深鉢	
SX11	6				3					14	23	15			1	3		65	84	1	2	110	縄文：深鉢	
SX12	19	1			4			12	2	8	46	25			1	51		49	126	2	2	176	須恵：甕・横瓶、縄文：深鉢	
SX14	6	2			1	1		7	1	6	24	8		1		8		15	32		1	57	須恵：有台皿、縄文：深鉢	
SX15	4	1						1		2	8	1				2		18	21			29		
SX19										2	2	2				1		1	4			6		
SX20	1							4		5	10					3		15	18			28		
SX21	2							1		4	7	1						6	7			14		
SX22											0	1				1			2			2		
SX23								2			2	1				1			2	1		5		
SB1	3									2	5	2				3		5	10		1	16	縄文：深鉢	
SK1	1						1	1			3	1						2	3			6		
SK3																					1	1	縄文：深鉢	
SK4A	3	1			1			2		4	12	2		1				17	20	1	1	33	土師質：坏	
SK4B											0	1							1			1		
SK5	1									1	2	1							1			3		
SK8					1			5	1	3	10	1				3		26	30			40	須恵：長頸壺	
SK9	1										1								0			1		
SK10	1					1					2								0			2		
SK12	1	1						10		5	17	1						13	14			31		
SF1	1							1			2	1							1			3		
P6											0	1							1			1		
P10											0					1			1			1		
P18						1					1							1	1			2		
P22	1							2		2	5	3				1			4			9		
その他	3	1						6	2	13	25	11						34	45	1	2	73	須恵：長頸瓶、楠鉢	
包含層	33	8			4	1		20	1	53	121	22				17		207	246	2	7	375	須恵：高台付皿、土師質：坏、縄文：深鉢	
合計	188	24	2	3	40	8	3	168	13	246	695	227	4	4	6	237	4	972	1454	10	31	2190		

第VI章 まとめ

発掘調査の結果、縄文時代中期後葉、古墳時代終末期～奈良・平安時代までの遺物が出土し、検出された遺構は、縄文時代を除く出土遺物と同様の時期と考えられる。これまでも触れてきたように、本遺跡は豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡の北側に近接しており、出土遺物の内容から、少なくとも縄文時代中期と古墳時代終末期～奈良・平安時代では、本遺跡と豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡が同じ集落の一部をなしていたと考えられる。ここでは、本遺跡と豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査成果を併せ、本集落跡を概観することで本調査のまとめとしたい。

縄文時代中期後葉 本遺跡では、縄文時代の遺構は確認できなかったが、少量の加曽利 E3～E4 式の深鉢破片が出土した。豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡では、加曽利 E3～E4 式期の遺物のほか、住居跡 1 軒、埋設土器 2 基を含む 6 基の土坑が検出された。遺構・遺物が古代遺構に混在して確認される内容から、集落跡の様相は不明瞭であり、当該期の遺構は他時期の遺構に破壊された可能性も考えられる。こうした遺構群と本遺跡との距離が近い位置関係にあることから、本遺跡が縄文集落の一部または外縁部としての性格が考えられる。

古墳時代終末期～奈良・平安時代 本調査では、7 世紀～10 世紀までの遺構・遺物が確認された。この時間幅の中で、8 世紀半ば～後半に相当する遺物数が少ない傾向が見て取れる。これは、豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡で「8 世紀後半から 9 世紀前半までの土器はなく、空白期」（関口・池田 1998）となる時期と一致する。本遺跡では、この空白期の後の状況として、9～10 世紀に遺物数・遺構数の増加が伺えるのみだが、豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査所見では、9 世紀の後半に「通常の集落の様相を呈さない」時期があり、10～11 世紀に「規模の大きな集落が形成」されるものと推察している（関口・池田 1998）。こうした推察の根拠に、9 世紀の後半の遺構から出土した和同開珎・畿内系緑釉陶器・墨書土器の存在や、9 世紀以降に瓦の出土数の増加をあげている。

本調査でも、少数だが、ほぼ同時期に相当する墨書土器や瓦が確認されており、豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡の結果と矛盾するものではない。ただし、本遺跡で検出された SB1（掘立柱建物跡）の時期が、構築層位から 10 世紀以降となる可能性が高い点、「官衙的遺構との関係が強い」（桜岡 1988）とされる暗文土師器が 8 世紀代の坏にみられる点から、本調査からは、「通常の集落の様相を呈さない」状況は、9 世紀後半に限らずとも散見できる。本遺跡・豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査成果を通して、8 世紀の「空白期」以後、それ以前の遺物・遺構の内容とは異なる点について述べたが、こうした変化を積極的に表現するならば、8 世紀以降の本集落に「〔都城的な生活様式〕を志向する傾向」（桜岡 1988）の定着と見ることもできよう。本報告で言及した 8 世紀の空白や 9 世紀の集落内容の変化の実態は、今後の本集落跡や周辺遺跡での調査成果によって明らかにされるものと思われる。

引用・参考文献

- 坂口一ほか 1984『関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第 6 集 中尾』群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 坂口一・三浦京子 1986「奈良・平安時代の土器の編年―住居の重複と共存関係による土器型組列」『群馬県史研究』第 24 号
群馬県史編さん委員会
- 群馬県史編さん委員会 1986『群馬県史 通史編 2 原始古代Ⅱ』群馬県
- 中村浩 1993『考古学ライブラリー 5 須恵器』ニュー・サイエンス社
- 中村浩 編 1995『須恵器集成図録 第 1 巻 近畿編Ⅰ』雄山閣出版
- 桜岡正信 1988「群馬県内出土の暗文土師器について―在地産を中心として―」『群馬県史研究』第 30 号
群馬県史編さん委員会
- 関口修・池田敬 1998『豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡 下豊岡市営住宅建て替えに伴う発掘調査』高崎市教育委員会
- 高崎市市史編さん委員会 1999『新編 高崎市史 資料編 1 原始古代Ⅰ』高崎市
- 高崎市市史編さん委員会 2000『新編 高崎市史 資料編 2 原始古代Ⅱ』高崎市
- 松田猛 2004「上野国片岡郡についての基礎的研究―古代のミヤケと郡・郷をめぐって―」『高崎市史研究』第 19 号
高崎市市史編さん専門委員会

写真図版

- PL.1 遺跡全景写真
PL.2 遺構写真 1 (SI3、SI3B、SI8、SB1、SX5)
PL.3 遺構写真 2 (SB1、SX4・7・10・11・12・14)
PL.4 遺構写真 3 (SX14・20・21、SK1、SF1、作業状況)
PL.5 遺物写真 1 (SI3、SI3B、SI8、SB1、SX5)
PL.6 遺物写真 2 (SX7・9・10・11・14)
PL.7 遺物写真 3 (SX4・12・20・21、SK1・3・4・8、SF1)



遺跡全景（南から）



遺跡全景（北から）



SI3、SI3B、SX5 全景（西から）



SI3 カマド検出状況（南西から）



SI3 カマド周辺遺物出土状況（西から）



SI8 全景（南東から）



SI8 遺物出土状況（東から）



SI8 カマド検出状況（南東から）



SB1 全景（東から）



SB1-P1 土層断面（南から）



SB1-P2 土層断面 (南から)



SX4 全景 (東から)



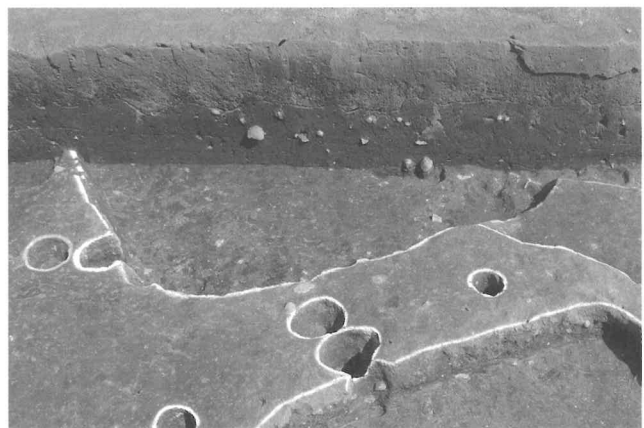
SX7 全景 (西から)



SX9 全景 (南から)



SX10 全景 (西から)



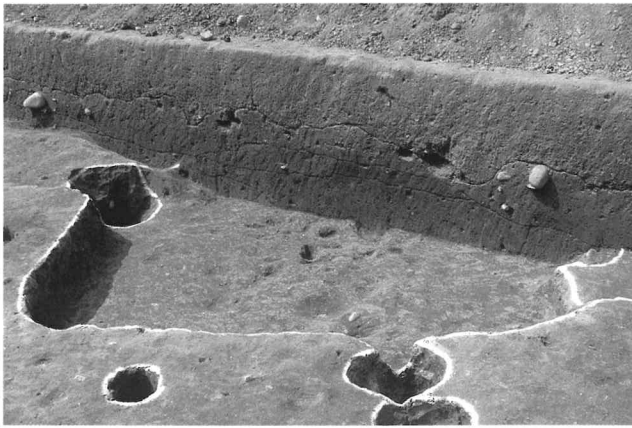
SX11 全景 (西から)



SX12 全景 (南から)



SX14 全景 (西から)



SX14 全景（東から）



SX14 遺物出土状況①（東から）



SX14 遺物出土状況②（西から）



SX20・21、SK1 全景（南から）



SX20 遺物出土状況①（南から）



SX20 遺物出土状況②（南から）



SF1 遺物出土状況（東から）



作業状況（北から）

SI 3



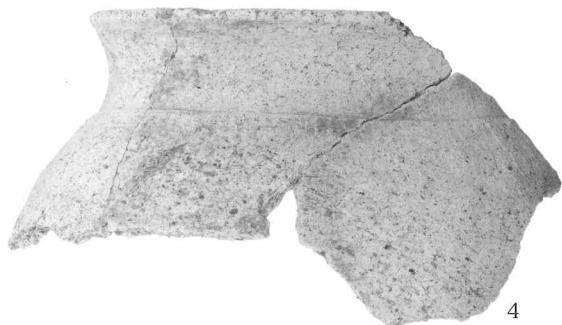
1



2



3



4



5



6



7



8



9



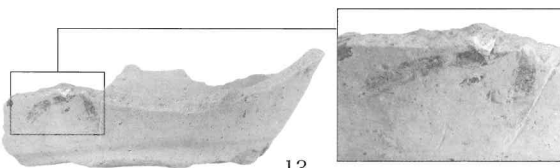
10



11



12



13



14



15



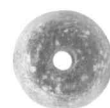
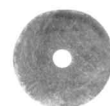
16

SI 3B



17

SX 5



18

SI 8



19



20



21



22



27



23



26



24



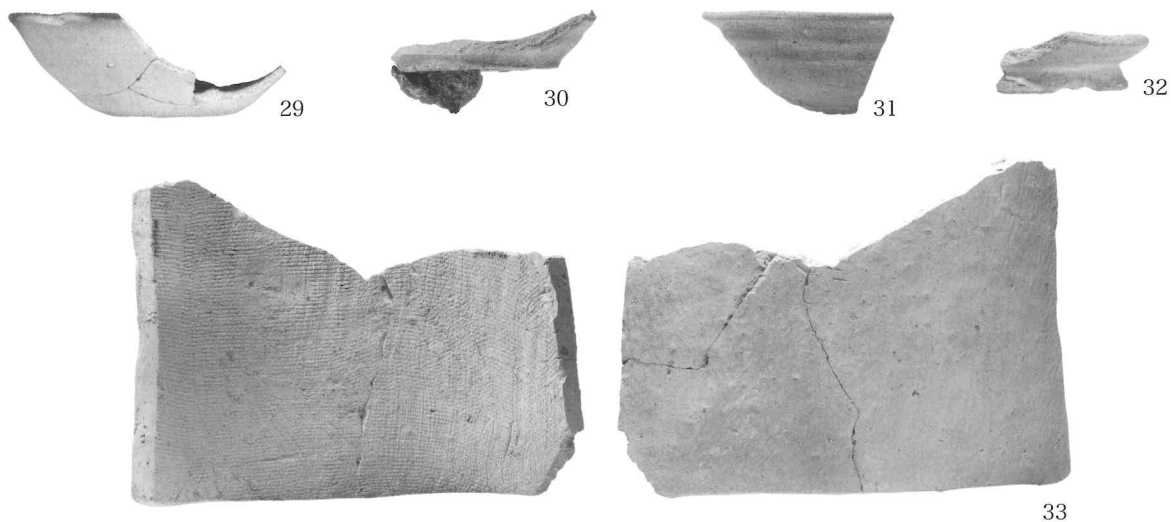
25

SB 1

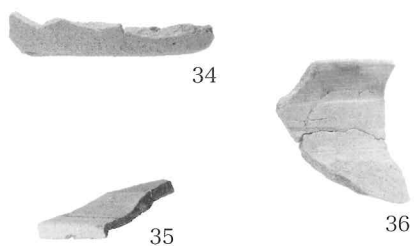


28

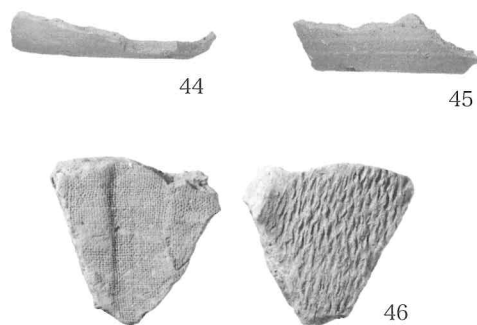
SX 7



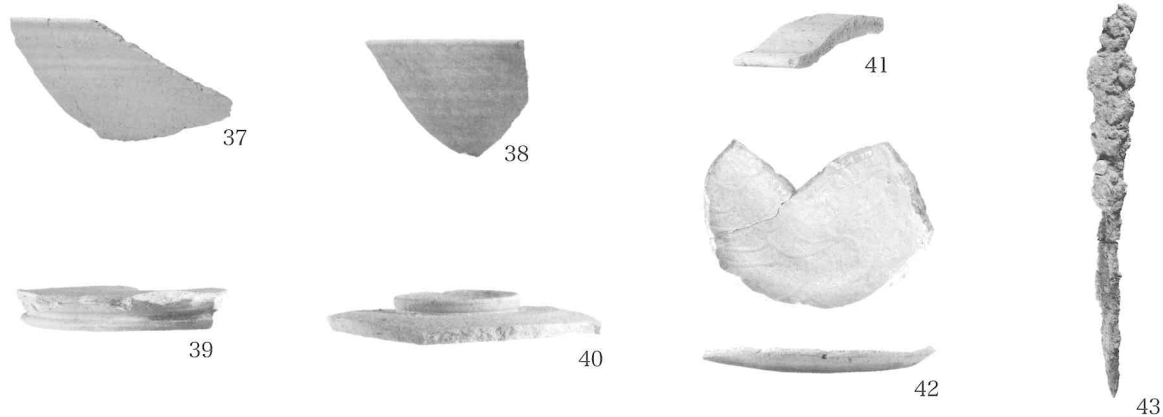
SX 9



SX 11



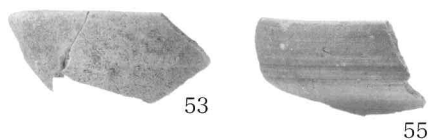
SX 10



SX 14



SX 4



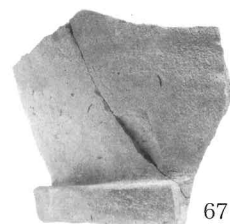
SX 1 2



SX 2 0 • 2 1



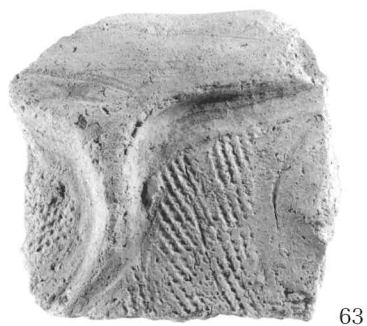
SK 4



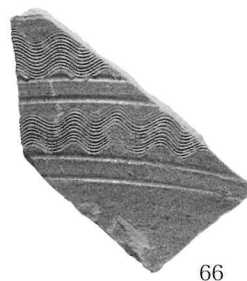
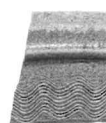
SK 1



SK 3



SK 8



SF 1



報告書抄録

フリガナ	シモトヨオカゴハラサンイセキ
書 名	下豊岡後原Ⅲ遺跡
副書名	宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第228集
編著者名	斎藤寛方 倉石広太
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 高崎市高松町35番地1号
発行年月日	西暦2008年9月9日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 遺跡所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
シモトヨオカゴハラサン 下豊岡後原Ⅲ イ セキ 遺 跡	グンマケンタカサキシモ 群馬県高崎市下 トヨオカマチ パンチ 豊岡町1271番地	02119	414	36度 20分 06秒	138度 58分 49秒	2008年 3月3日～ 2008年 3月24日	133.62㎡	宅地造成に伴う 埋蔵文化財発掘 調査

フリガナ 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
シモトヨオカゴハラサン 下豊岡後原Ⅲ イ セキ 遺 跡	集落 遺跡	古墳時代終末期～奈良・平安時代	竪穴住居跡2軒 掘立柱建物1棟 竪穴状遺構21基 土坑14基 焼土範囲1ヶ所 ピット24基	縄文土器・石器・土師器・須恵器・墨書土器・瓦・土製品・石製品・鉄器	下豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡に連続する古墳時代終末期～奈良・平安時代の集落遺跡

高崎市埋蔵文化財調査報告書第228集

下 豊 岡 後 原 Ⅲ 遺 跡

— 宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成20年9月3日 印 刷

平成20年9月9日 発 行

編 集／高崎市教育委員会

発 行／高崎市教育委員会

印 刷／細谷印刷株式会社